

厚生労働行政推進調査事業費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）
総合研究報告書

幼児の栄養・食生活支援に関わる支援者を対象とした
「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド（案）」
に関する調査研究

研究代表者 衛藤 久美（女子栄養大学）

研究分担者

鈴木 美枝子（玉川大学）

佐々木 溪円（実践女子大学）

多田 由紀（東京農業大学）

祓川 摩有（聖徳大学）

船山 ひろみ（鶴見大学）

秋山 有佳（山梨大学大学院）

研究協力者

會退 友美（東京家政学院大学）

石川 みどり（国立保健医療科学院）

近藤 洋子（玉川大学）

杉浦 至郎（あいち小児保健医療総合センター）

高橋 嘉名芽（愛育病院）

多田 恭子（聖路加国際病院）

西 智子（日本女子大学）

仁藤 喜久子（仙台白百合女子大学）

林 典子（十文字学園女子大学）

茂呂 歩実（鶴見大学）

山縣 然太郎（山梨大学大学院）

山崎 嘉久（あいち小児保健医療総合センター）

吉池 信男（青森県立保健大学）

研究要旨

平成 29 年度～令和元年度厚生労働科学研究費補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイドに関する研究」で作成された幼児の栄養・食生活支援に関わる保健医療従事者や児童福祉関係者等を対象とした「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド（案）」（以下「支援ガイド案」）について、市区町村保健センターでの母子保健事業、保育所や幼稚園等での保育・幼児教育の場等において、栄養・食生活支援に関わる支援者を対象に、支援ガイド案を効果的に活用するために改訂する上での具体的な改善点を明らかにすることを目的とした。

これまで研究代表者、研究分担者、研究協力者が継続的に協働してきた施設を対象に、令和 2 年 9 月～12 月に自由回答を中心とした質問紙調査を、郵送法により実施した。合計 88 施設 131 名に依頼し、84 施設 126 名より回答を得て（回収率：施設 95.5%、対象者 96.2%）、有効回答は 82 施設 123 名だった（有効回答率：施設 93.2%、対象者 93.4%）。施設の内訳は、母子保健事業の場 15 施設、保育・幼児教育の場 63 施設、その他 4 施設、有効回答者の職種は、管理栄養士・栄養士（52 名）、保健師（6 名）、看護師（8 名）、保育士（16 名）、幼稚園教諭（5 名）、調理員（6 名）、医師（3 名）、歯科医師（1

名)、歯科衛生士(3名)、施設長・副施設長(23名)だった。

支援ガイド案に対する意見として、「わかりやすい」という回答がどの内容も6割以上だった。特に「⑤幼児期の栄養・食生活支援の取組(好事例)の紹介」は90.9%と最も割合が高く、「①幼児期の栄養・食生活をめぐる状況」が最も割合が低かった。とても又は少し「役立ちそう」という回答がどの内容も約9割以上だった。特に「④幼児・保護者の栄養・食生活の課題の改善のための支援の考え方と方向性」は、とても+少し役立ちそうであるが96.4%と最も割合が高く、逆に「⑤幼児期の栄養・食生活支援の取組(好事例)の紹介」が89.0%と最も低かった。もっと入れてほしい内容としては、「幼児の食事の目安量」、「保護者への支援の具体例」、「発達段階に応じた食べ方等の詳しい内容」や「食物アレルギー」が多く挙げた。

本研究の結果より、支援ガイド案は、幼児の栄養・食生活支援に従事している支援者から見て、母子保健や保育・幼児教育の場で活用可能なガイドであることが示唆された。一方で、わかりにくい点や追加・改善すべき点も明らかとなった。本研究の結果を踏まえて、「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド(案) Ver.2」を作成した。

A. 研究目的

平成29年度～令和元年度厚生労働科学研究費補助金(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイドに関する研究」(研究代表者 石川みどり)(以下「石川班」)では、幼児の栄養・食生活支援に関わる保健医療従事者や児童福祉関係者等を対象とした「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド(案)」(以下「支援ガイド案」)が作成された。

石川班では、幼児の栄養・食生活支援に関する科学的根拠の整理と、支援に必要なとなる枠組みが構築され、支援ガイド案が作成された。この支援ガイド案を実践的に活用するためには、幼児の栄養・食生活に関わる支援者の意見を取り入れながら、支援ガイド案の具体的な活用方法を検討する必要がある。

本研究では、市区町村保健センターでの母子保健事業、保育所や幼稚園等での保育・幼児教育の場等において、栄養・食生活支援に関わる支援者を対象に、支援ガイド案を効果的に活用するために改訂する上での、

具体的な改善点を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

1. 調査方法

これまで研究代表者、研究分担者、研究協力者が継続的に協働してきた施設を中心に、地域特性、施設の特性等を考慮して、事前に調査の主旨等を担当者に説明し、調査協力の内諾を得た上で、調査を実施した。

自由回答を中心とした質問紙調査を、郵送法により令和2年9月～12月に実施した。施設ごとに、施設長宛の依頼文書及び同意書、対象者宛の依頼文書、同意書、調査票、支援ガイド案、返信用封筒を郵送した。回答期限は、配布の約1か月後とした。

2. 研究対象

研究対象は、大きく母子保健事業の場、保育・幼児教育の場、その他とした。母子保健事業の場としては、乳幼児健康診査(以下「乳幼児健診」という)を実施している市区町村保健センターや医療施設、保育・幼児教育の場としては、公立・私立の保育所、幼稚

園、認定こども園、その他としては、子育て支援センター等を対象とした。対象職種は、幼児の栄養・食生活支援に関わっている管理栄養士・栄養士、保健師、保育士、幼稚園教諭、保育教諭、看護師、調理員、歯科衛生士、歯科医師、医師、園長等とした。

なお同一施設で複数職種からの協力が得られる場合は、複数職種に回答を依頼した。同一施設内に同一職種が複数名いる場合は、1名に回答を依頼した。

合計 88 施設 131 名に依頼し、84 施設 126 名より回答を得た（回収率：施設 95.5%、対象者 96.2%）。施設長の同意書が回収できなかった者を除いた 82 施設 123 名を有効回答とした（有効回答率：施設 93.2%、対象者 93.4%）。

3. 調査内容

調査内容は、支援ガイド案を一読した上で A4 版 4 枚の質問紙に回答することを依頼した（資料）。アンケート内容は、支援ガイド案の内容について各章ごとに「わかりやすい」か「わかりにくい」かを尋ね、「わかりにくい」と回答した場合は、わかりにくいページや項目、文章を記載いただき、わかりにくい内容を記述してもらった。

また、支援ガイド案の各章の活用可能性について、「とても役に立ちそうである」「少し役に立ちそうである」「あまり役に立たなそうである」の 3 件法で尋ね、「とても役に立ちそうである」「少し役に立ちそうである」と回答した場合にはそう感じたページ・項目・文章、どのような時に役に立ちそうかを記述してもらった。一方、「あまり役に立たなそうである」と回答した場合にはその理由を記述してもらった。さらに、支援ガイド案には含まれていない内容で取り入れた方がよい内容や、入れてほしい内容がある場

合は記載を求めた。

加えて、回答者自身のことについて（性別、年代、所属する施設の種類、現在の職種、勤務年数、勤務形態）、現在行っている栄養・食生活支援に関する業務や、支援を行う際に参考にする情報源、支援内容に悩んだ際の対応について尋ねた。

4. 解析方法

選択肢を伴う質問項目（単一回答、複数回答）については、単純集計をした上で、施設種類別、職種別にクロス集計を行った。集計する際は、項目ごとに欠損値（無回答、無効回答、非該当）は除外して集計した。集計には、統計解析ソフト IBM SPSS Statistics27 を用いた。

自由回答については、Microsoft Excel を用いて、以下の手順で分析した。1) 各対象者の回答について、1 セルに複数の内容が含まれている場合は、1 セル＝1 つの内容にした。2) 回答内容が似ているものをカテゴリー化し、内容を反映するカテゴリー名を付与した。3) 支援ガイド案のページ及び項目順に並び替えた。1) 及び 2) の分析については、2 名の研究者が独立して分析した上で、内容の確認を別の研究者 1~3 名を含めて行った。意見に相違がある場合は、話し合いにより解決した。

（倫理面への配慮）

調査に当たっては、事前に書面にて研究趣旨や内容、方法、個人情報の保護等について説明し、施設長及び対象者に書面で同意を得た上で、調査を実施した。本研究は、女子栄養大学研究倫理審査委員会の審査、承認を得た上で実施した（承認番号第 289 号）。

C. 研究結果

1. 有効回答施設・対象者特性

有効回答施設計 82 施設の内訳は、母子保健事業の場 15 施設、保育・幼児教育の場 63 施設、その他 4 施設であった（図 1）。保育・幼児教育の場としては、公立保育所 27 施設、私立保育所 19 施設と、保育所が大半を占めたが、幼稚園（6 施設）や認定こども園（8 施設）もあった。その他には、子育て支援センター（2 施設）の他、市区町村食育施策担当等が含まれていた。また都道府県別にみると、東京都 35 施設、神奈川県 20 施設と首都圏に所在する施設が多かった（表 1）。

有効回答者 123 名の職種は、管理栄養士・栄養士が 52 名と約 4 割を占めた。それ以外にも、保健師（6 名）、看護師（8 名）、保育士（16 名）、幼稚園教諭（5 名）、調理員（6 名）、医師（3 名）、歯科医師（1 名）、歯科衛生士（3 名）、施設長・副施設長（23 名）と、多職種から回答を得た（図 2）。施設長・副施設長と回答した 23 名は、保育所、幼稚園、又はこども園の施設長・副施設長だった。23 名中 11 名は、保育士、幼稚園教諭のいずれか 1 つ以上の資格・免許を保有していた。

2. 栄養・食生活支援の業務

現在業務として行っている栄養・食生活支援については、有効回答者全体では「保護者に対する情報提供（例：リーフレット配布、ポスター掲示）」が 68.6%と最も多かった。次いで、「保護者からの個別相談」（58.7%）、「幼児に対する食育（例：料理教室）」（47.9%）が多かった（表 2-1）。

また、施設種類別にみると、母子保健施設では「幼児健診・歯科健診における栄養指導・相談や食育」が 81.5%と最も多く、「幼児健診・歯科健診以外の場における栄養指導・相談や食育」（77.8%）、「保護者に対す

る情報提供（例：リーフレット配布、ポスター掲示）」（63.0%と）続いた。一方、保育・幼児教育施設では、母子保健施設で多かった回答は少なく、「保護者に対する情報提供（例：リーフレット配布、ポスター掲示）」が 70.8%、「保護者からの個別相談」（62.9%）、「食事やおやつの提供・片付け（配膳する）」（59.6%）が多い結果であり、施設ごとの業務の特徴が示された（表 2-1）。

そして、職種別でみると、管理栄養士・栄養士では「保護者に対する情報提供（例：リーフレット配布、ポスター掲示）」が 90.4%と最も多く、保健師では「幼児健診・歯科健診における栄養指導・相談や食育」（80.0%）、保育士では「共食（子どもと一緒に食べる）」と「保護者からの個別相談」がいずれも 75.0%と最も多かった（表 2-2）。

3. 栄養・食生活支援を行う際に参考にする情報

栄養・食生活支援を行う際に参考にしてしている情報について全体で最も多かった回答は、「栄養や食に関する専門書・教科書」（60.7%）であり、次いで「同僚や上司の助言や提供情報」（52.5%）、「同職種の助言や提供情報」（51.6%）が多かった。

施設種類別にみると、母子保健施設および保育・幼児教育施設のいずれにおいても「栄養や食に関する専門書・教科書」を最も参考にしてている人が多いことが分かった（母子保健施設：67.9%、保育・幼児教育施設：59.6%）（表 3-1）。

職種別では、管理栄養士・栄養士、保健師、看護師では全体と同様「栄養や食に関する専門書・教科書」が最も多かった（それぞれ、84.6%、83.3%、50.0%）。また、保育士では「同僚や上司の助言や情報提供」（80.0%）、幼稚園教諭では「一般書籍」と「研修会、研

研究会、学会等の資料や情報」(80.0%)が多かった(表3-2)。

4. 栄養・食生活支援で困った際の対応

栄養・食生活支援で困った際の対応については、全体、施設種類別のいずれにおいても同様の傾向が見られた。「同じ施設内の他職種に相談する」が最も多く(それぞれ、79.5%、89.3%、76.4%)、「同じ施設内の同職種に相談する」が次に多い結果であった(それぞれ、57.4%、75.0%、51.7%)。最も多かった「同じ施設内の他職種に相談する」の内容をみると、全体および母子保健施設では多くの人々が「管理栄養士・栄養士」(それぞれ、40.6%、52.0%)に相談していることが分かった。一方で保育・幼児教育施設では「保育士」(43.3%)に相談している人が多かった。

また、「施設外で幼児の栄養・食生活に関する同職種に相談する」場合の内容をみると、「市区町村内の別の保育園」に相談している人が多くみられた(全体:57.6%、母子保健施設:60.0%、保育・幼児教育施設:57.1%)(表4-1)。そして、「自分で調べる」と回答した人の内容では、「インターネット」が最も多かった(全体:63.9%、母子保健施設:63.6%、保育・幼児教育施設:62.5%)(表4-1)。

職種別でも「同じ施設内の他職種に相談する」が多くの職種で最も多かった。相談相手の詳細をみると、管理栄養士・栄養士と看護師の最も多い相談相手は「保育士」(それぞれ、43.9%、87.5%)であり、保健師や保育士、幼稚園教諭などでは「管理栄養士・栄養士」に相談している人が最も多かった。なお「自分で調べる」の内容としてはほとんどの職種で「インターネット」と回答した人が最も多い結果であった(表4-2)。

5. 支援ガイド案に対する意見(わかりやすさ)

「わかりやすい」という回答がどの内容も6割以上だった。特に「⑤幼児期の栄養・食生活支援の取組(好事例)の紹介」は90.9%と最も割合が高かった。一方、最も割合が低かったのは、「①幼児期の栄養・食生活をめぐる状況」であった(表5)。

「わかりにくい」内容(自由回答)を分析した結果、抽出された自由回答内容の延べ件数は、「①幼児期の栄養・食生活をめぐる状況」112件、「②幼児の栄養・食生活についての基本事項及び枠組み」66件、「③図「子ども・保護者の栄養・食生活の課題の改善のための支援の方向」37件、「④幼児・保護者の栄養・食生活の課題の改善のための支援の考え方と方向性」112件、「⑤幼児期の栄養・食生活支援の取組(好事例)の紹介」27件だった(表6-1~6-5)。特に件数が多かった「①幼児期の栄養・食生活をめぐる状況」については、平成27年度乳幼児栄養調査結果を抜粋した内容について、「文章がわかりにくい」、「図が見にくい」、「文章と図が合っていない」等の意見が多く挙がった。「④幼児・保護者の栄養・食生活の課題の改善のための支援の考え方と方向性」については、「文章がわかりにくい」、「図がわかりにくい」の他、記載内容に対する疑問や意見も見られた。

6. 支援ガイド案に対する意見(活用可能性)

とても又は少し「役立ちそう」という回答がどの内容も約9割以上だった。特に「④幼児・保護者の栄養・食生活の課題の改善のための支援の考え方と方向性」は、とても役立ちそうである57.1%、少し役立ちそうである39.3%と、最も役立ちそうと回答した割合

が高かった。一方、「⑤幼児期の栄養・食生活支援の取組（好事例）の紹介」はあまり役立たなさそうであるが11.0%と、他に比べてその回答率が高かった（表7）。

「役立ちそう」な内容（自由回答）を、活用場面と活用方法で分析した結果、抽出された自由回答内容の延べ件数は、「①幼児期の栄養・食生活をめぐる状況」122件、「②幼児の栄養・食生活についての基本事項及び枠組み」107件、「③図「子ども・保護者の栄養・食生活の課題の改善のための支援の方向」96件、「④幼児・保護者の栄養・食生活の課題の改善のための支援の考え方と方向性」103件、「⑤幼児期の栄養・食生活支援の取組（好事例）の紹介」98件だった（表8-1~8-5）。

活用場面と活用方法の2つの視点で整理した結果、まず活用場面としては、乳幼児健診や食育といった子どもへアプローチする場面に加え、保護者支援や保護者への情報提供といった保護者にアプローチする場面でも活用可能であるという意見が見られた。さらに、支援者間の情報共有、他職種連携、支援者教育、他機関の連携といった、支援者間での活用も可能であるという意見も見られた。活用方法としては、現状把握、問題の把握、課題の整理等のアセスメント（計画）や、支援方法や助言内容の検討（実施）が多く見られたが、評価や見直しといった活用方法も挙がり、栄養・食生活支援のPDCAサイクルの各段階で活用可能であることが明らかとなった。

7. 支援ガイド案に対する意見（入れてほしい内容）

有効回答者123名のうち67名がこの設問に回答し、特になしと回答した15名を除いた52名の記述の延べ件数は83件だった（表

9）。「幼児の食事の目安量」や「保護者への支援の具体例」（各6件）、「発達段階に応じた食べ方等の詳しい内容」や「食物アレルギー」（各5件）が多く挙げた。他にも、「咀嚼機能と調理形態の関係をもっと具体的に」、「コロナ禍における支援」、「めざす姿を載せてほしい」等（各3件）の意見も挙げた。

8. 支援ガイド案の改善点

本調査結果をふまえて、研究分担者、研究協力者による研究班会議で検討した結果、以下の方針で支援ガイド案を改訂することとなった。

①「「幼児期の栄養・食生活等をめぐる状況（平成27年乳幼児栄養調査結果より）」は、「わかりにくい」という回答が最も多かった。乳幼児栄養調査の結果の概要に掲載されている範囲で、調査の対象年齢がわかるように記載する、グラフは見やすくなるように修正する、原則図にあわせて文章を修正・加筆する等する。

②「幼児の栄養・食生活についての基本事項及び枠組み」並びに図「子ども・保護者の栄養・食生活の課題の改善のための支援の方向性」については、「保護者」と「親」は「保護者」に統一する等用語を統一する、主語が子どもなのか保護者なのかがわかるような文章にする、P10、12の図は左から右に流れる図にする等修正する。

③「幼児・保護者の栄養・食生活の課題の改善のための支援の考え方と方向性」については、様々な意見があったため、取り入れた方がよい内容について、取り入れていく。

④「幼児期の栄養・食生活支援の取組（好事例）の紹介」については、明らかな誤植やレイアウトミスは修正するが、内容については事例提供者への負担を考慮し、原則修正

しない。事例を提供者が今年度の研究分担者、研究協力者の場合は、可能な範囲で追加・修正する。

⑤もっと入れてほしい内容として意見が挙がった内容のうち、「発達段階に応じた食べ方等の詳しい内容」、「咀嚼機能と調理形態の関係をもっと具体的に」、「丸のみ・嚙まない場合の対応」については、分担研究として、「幼児期における口腔機能の発達に対応した食の進め方（暫定版）」の作成が進められている。また、「保護者への支援の具体例」、「他組織・他職種連携」「具体的な支援事例」については、分担研究として「保育・幼児教育の場における困りごとの分析結果に基づく幼児の栄養・食生活の困りごと Q&A（案）」の作成が進められている。これらを補完する位置づけで、「歯科」、「食物アレルギー」、「誤飲・窒息等事故予防の視点」「具体的な支援事例」の 4 点については、コラムとして支援ガイド案に加筆することとした。

D. 考察

本研究の結果より、「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド（案）」は、「わかりやすい」と回答した支援者が 6 割以上、「役立ちそう」と回答した支援者が約 9 割以上だったことから、母子保健事業や保育・幼児教育の場で支援者が活用可能なガイドであることが示唆された。

一方で、支援ガイド案に対する自由回答の分析結果より、具体的な改善点を見出すことができた。

E. 結論

本研究の結果より、「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド（案）」は、幼児の栄養・食生活支援に従事している支援者から見て、母子保健や保育・幼児教育の場で活用可能なガイドであることが示唆された。一方で、わかりにくい点や追加・改善すべき点も明らかとなった。本研究の結果を踏まえて、「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド（案） Ver. 2」を作成した。

参考文献

厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業）「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイドの開発に関する研究」（研究代表者：石川みどり）平成 29 年度～令和元年度総合研究報告書、2020

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）
なし

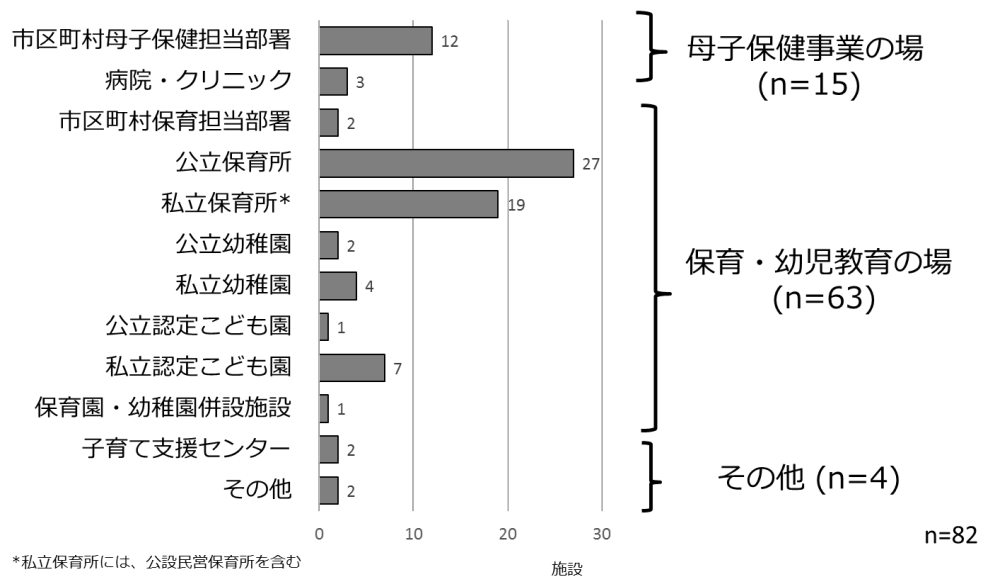


図1 有効回答施設の内訳

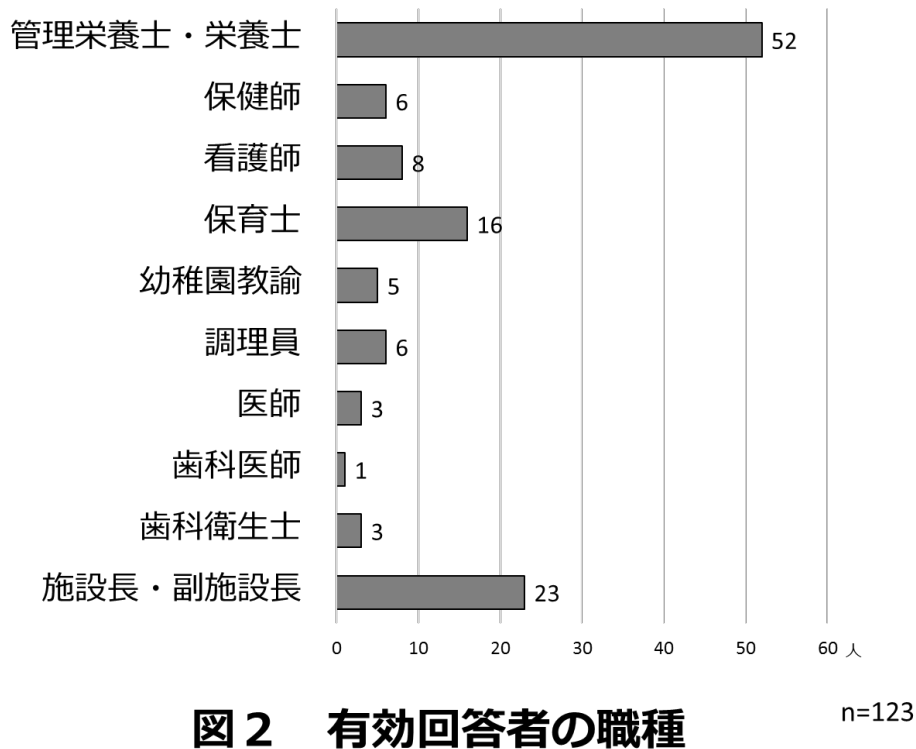
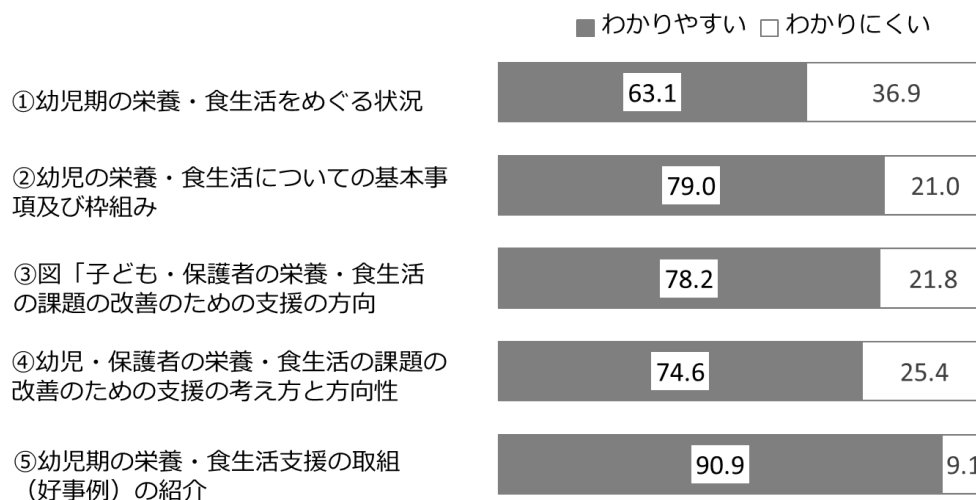
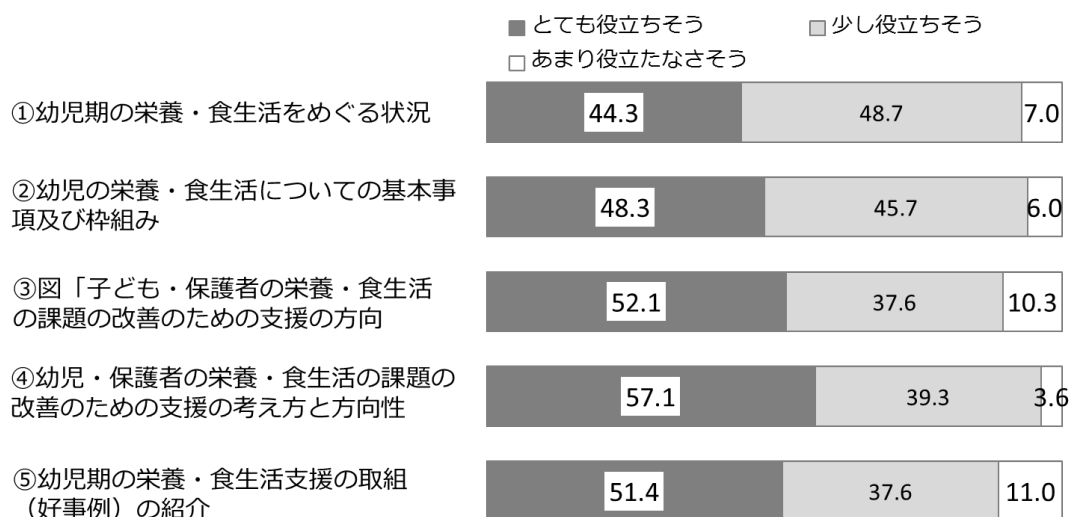


図2 有効回答者の職種



n=123

**図3 支援ガイド案に対する意見
(わかりやすさ)**



n=117

**図4 支援ガイド案に対する意見
(活用可能性)**

表1 都道府県別有効回答施設数

所在地 (都道府県)	母子保健		保育・幼児教育								その他		合計
	市区町村 母子保健 担当部署	病院・クリ ニック	市区町村 保育 担当部署	公立保育所	私立保育所 *	公立幼稚園	私立幼稚園	公立認定 こども園	私立認定 こども園	保育所・幼 稚園併施設 設	子育て支援 センター	その他	
宮城県	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	3
山形県	0	0	0	0	2	0	2	0	1	0	0	0	5
埼玉県	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
千葉県	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	3
東京都	6	1	1	19	7	0	0	0	0	0	0	1	35
神奈川県	2	1	0	5	7	1	2	1	0	0	1	0	20
栃木県	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
群馬県	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
山梨県	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
静岡県	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2
愛知県	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
京都府	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
熊本県	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
宮崎県	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
合計	12	3	2	27	19	2	4	1	7	0	2	2	82

*私立保育所には、公設民営保育所を含む

表2-1 現在業務として行っている栄養・食生活支援(施設種類別)

	全体 (n=121)		母子保健施設 (n=27)		保育・幼児教育 施設(n=89)		その他 (n=5)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
1. 幼児健診・歯科健診における栄養指導・相談や食育	31	25.6%	22	81.5%	8	9.0%	1	20.0%
2. 幼児健診・歯科健診以外の場における栄養指導・相談や食育	54	44.6%	21	77.8%	31	34.8%	2	40.0%
3. 食事やおやつの調理	42	34.7%	2	7.4%	40	44.9%	0	0.0%
4. 食事やおやつの提供・片付け(配膳する)	55	45.5%	2	7.4%	53	59.6%	0	0.0%
5. 共食(子どもと一緒に食べる)	47	38.8%	2	7.4%	45	50.6%	0	0.0%
6. 幼児に対する食育(例:料理教室) ※1以外	58	47.9%	6	22.2%	50	56.2%	2	40.0%
7. 保護者に対する食育(例:料理教室) ※1以外	44	36.4%	7	25.9%	35	39.3%	2	40.0%
8. 保護者に対する情報提供 (例:リーフレット配布、ポスター掲示)	83	68.6%	17	63.0%	63	70.8%	3	60.0%
9. 保護者同士の交流を深める機会の提供	29	24.0%	4	14.8%	24	27.0%	1	20.0%
10. 保護者からの個別相談 ※1以外	71	58.7%	12	44.4%	56	62.9%	3	60.0%
11. その他	10	8.3%	2	7.4%	7	7.9%	1	20.0%

欠損値を除いて集計

表2-2 現在業務として行っている栄養・食生活支援(職種別)

	管理栄養士・ 栄養士 (n=52)		保健師 (n=5)		看護師 (n=8)		保育士 (n=16)		幼稚園 教諭 (n=5)		調理員 (n=6)		医師 (n=3)		歯科医師 (n=1)		歯科衛生士 (n=3)		施設長・ 副施設長 (n=22)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1. 幼児健診・歯科健診における栄養指導・ 相談や食育	15	28.8%	4	80.0%	2	25.0%	2	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	1	100.0%	3	100.0%	3	13.6%
2. 幼児健診・歯科健診以外の場における栄 養指導・相談や食育	30	57.7%	3	60.0%	3	37.5%	3	18.8%	2	40.0%	1	16.7%	0	0.0%	1	100.0%	3	100.0%	8	36.4%
3. 食事やおやつの調理	33	63.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%	0	0.0%	5	83.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	13.6%
4. 食事やおやつの提供・片付け(配膳する)	28	53.8%	0	0.0%	4	50.0%	11	68.8%	2	40.0%	3	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	31.8%
5. 共食(子どもと一緒に食べる)	12	23.1%	0	0.0%	4	50.0%	12	75.0%	3	60.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	15	68.2%
6. 幼児に対する食育(例:料理教室) ※1以外	39	75.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	18.8%	2	40.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	13	59.1%
7. 保護者に対する食育(例:料理教室) ※1以外	29	55.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	11	50.0%
8. 保護者に対する情報提供 (例:リーフレット配布、ポスター掲示)	47	90.4%	2	40.0%	1	12.5%	8	50.0%	3	60.0%	1	16.7%	0	0.0%	1	100.0%	2	66.7%	18	81.8%
9. 保護者同士の交流を深める機会の提供	8	15.4%	0	0.0%	2	25.0%	6	37.5%	3	60.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	10	45.5%
10. 保護者からの個別相談 ※1以外	32	61.5%	3	60.0%	3	37.5%	12	75.0%	4	80.0%	2	33.3%	2	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	13	59.1%
11. その他	5	9.6%	0	0.0%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	3	13.6%

欠損値を除いて集計

表3-1 栄養・食生活支援を行う際に参考にしている情報(施設種類別)

	全体 (n=121)		母子保健施設 (n=27)		保育・幼児教育 施設(n=89)		その他 (n=5)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
1. 栄養や食に関する専門書・教科書	74	60.7%	19	67.9%	53	59.6%	2	40.0%
2. 一般書籍	42	34.4%	7	25.0%	33	37.1%	2	40.0%
3. 学術雑誌、研究論文	23	18.9%	11	39.3%	12	13.5%	0	0.0%
4. 一般雑誌、新聞記事	35	28.7%	8	28.6%	27	30.3%	0	0.0%
5. 研修会、研究会、学会等の資料や情報	59	48.4%	12	42.9%	44	49.4%	3	60.0%
6. 料理検索サイト(クックパッド、クラシルなど)	33	27.0%	6	21.4%	27	30.3%	0	0.0%
7. ウェブサイト(料理検索サイト以外)	40	32.8%	12	42.9%	28	31.5%	0	0.0%
8. 同僚や上司の助言や提供情報	64	52.5%	17	60.7%	44	49.4%	3	60.0%
9. 同職種の助言や提供情報	63	51.6%	18	64.3%	41	46.1%	4	80.0%
10. 厚生労働省が提供する情報	28	23.0%	9	32.1%	19	21.3%	0	0.0%
11. その他省庁が提供する情報	15	12.3%	5	17.9%	9	10.1%	1	20.0%
12. その他の人からの助言や提供情報	8	6.6%	1	3.6%	6	6.7%	1	20.0%
13. その他	6	4.9%	2	7.1%	4	4.5%	0	0.0%

欠損値を除いて集計

表3-2 栄養・食生活支援を行う際に参考にしている情報(職種別)

	管理栄養士・ 栄養士 (n=52)		保健師 (n=5)		看護師 (n=8)		保育士 (n=16)		幼稚園教諭 (n=5)		調理員 (n=6)		医師 (n=3)		歯科医師 (n=1)		歯科衛生士 (n=3)		施設長・ 副施設長 (n=22)	
	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1. 栄養や食に関する専門書・教科書	44	84.6%	5	83.3%	4	50.0%	6	40.0%	3	60.0%	1	16.7%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	10	43.5%
2. 一般書籍	21	40.4%	0	0.0%	4	50.0%	4	26.7%	4	80.0%	0	0.0%	1	33.3%	1	100.0%	0	0.0%	7	30.4%
3. 学術雑誌、研究論文	12	23.1%	2	33.3%	1	12.5%	0	0.0%	1	20.0%	1	16.7%	1	33.3%	1	100.0%	2	66.7%	2	8.7%
4. 一般雑誌、新聞記事	14	26.9%	1	16.7%	2	25.0%	3	20.0%	2	40.0%	2	33.3%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	10	43.5%
5. 研修会、研究会、学会等の資料や情報	33	63.5%	2	33.3%	0	0.0%	3	20.0%	4	80.0%	2	33.3%	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	13	56.5%
6. 料理検索サイト(クックパッド、クラシルなど)	24	46.2%	0	0.0%	0	0.0%	2	13.3%	2	40.0%	3	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	1	4.3%
7. ウェブサイト(料理検索サイト以外)	25	48.1%	0	0.0%	3	37.5%	3	20.0%	1	20.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	1	33.3%	6	26.1%
8. 同僚や上司の助言や提供情報	30	57.7%	3	50.0%	1	12.5%	12	80.0%	3	60.0%	5	83.3%	1	33.3%	1	100.0%	2	66.7%	6	26.1%
9. 同職種の助言や提供情報	36	69.2%	4	66.7%	2	25.0%	10	66.7%	3	60.0%	2	33.3%	1	33.3%	1	100.0%	2	66.7%	2	8.7%
10. 厚生労働省が提供する情報	21	40.4%	0	0.0%	2	25.0%	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	3	13.0%
11. その他省庁が提供する情報	13	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.3%
12. その他の人からの助言や提供情報	3	5.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	3	13.0%
13. その他	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	4	17.4%

欠損値を除いて集計

表4-1 栄養・食生活支援で困った際の対応(施設種類別)

内容	全体 (n=123)		母子保健 施設 (n=28)		保育・ 幼児教育 施設(n=90)		その他 (n=5)	
	n	%	n	%	n	%	n	%
1. 同じ施設内の同職種に相談する	70	57.4%	21	75.0%	46	51.7%	3	60.0%
2. 同じ施設内の他職種に相談する	97	79.5%	25	89.3%	68	76.4%	4	80.0%
園長・副園長*	8	8.3%	1	4.0%	7	10.4%	0	0.0%
上司・主任*	5	5.2%	1	4.0%	4	6.0%	0	0.0%
保育士*	36	37.5%	6	24.0%	29	43.3%	1	25.0%
看護師*	27	28.1%	4	16.0%	20	29.9%	3	75.0%
保育教諭*	2	2.1%	1	4.0%	1	1.5%	0	0.0%
管理栄養士・栄養士*	39	40.6%	13	52.0%	24	35.8%	2	50.0%
保健師*	13	13.5%	8	32.0%	5	7.5%	0	0.0%
調理員・調理師*	17	17.7%	3	12.0%	13	19.4%	1	25.0%
歯科衛生士*	6	6.3%	3	12.0%	3	4.5%	0	0.0%
歯科医師*	1	1.0%	1	4.0%	0	0.0%	0	0.0%
医師*	2	2.1%	1	4.0%	0	0.0%	1	25.0%
その他*	7	7.3%	2	8.0%	4	6.0%	1	25.0%
3. 施設外で幼児の栄養・食生活支援に関わる同職種に相談	40	32.8%	5	17.9%	35	39.3%	0	0.0%
市区町村内の別の保育園†	19	57.6%	3	60.0%	16	57.1%	0	0.0%
系列/同一法人内の別の保育園†	5	15.2%	0	0.0%	5	17.9%	0	0.0%
市区町村役所・役場†	7	21.2%	1	20.0%	6	21.4%	0	0.0%
保健センター†	3	9.1%	1	20.0%	2	7.1%	0	0.0%
保健所†	3	9.1%	1	20.0%	2	7.1%	0	0.0%
別の保健センター†	1	3.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%
市区町村外†	2	6.1%	0	0.0%	2	7.1%	0	0.0%
その他†	5	15.2%	2	40.0%	3	10.7%	0	0.0%
4. 施設外で幼児の栄養・食生活支援に関わる他職種に相談す	20	16.4%	4	14.3%	16	18.0%	0	0.0%
5. 自分で調べる	57	46.7%	14	50.0%	41	46.1%	2	40.0%
インターネット‡	23	63.9%	7	63.6%	15	62.5%	1	100.0%
書籍・雑誌(一般・その他)‡	9	25.0%	2	18.2%	7	29.2%	0	0.0%
書籍・雑誌(専門)‡	6	16.7%	3	27.3%	3	12.5%	0	0.0%
厚生労働省ガイドライン等‡	9	25.0%	3	27.3%	6	25.0%	0	0.0%
母子衛生研究会‡	3	8.3%	2	18.2%	1	4.2%	0	0.0%
小児歯科学会‡	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Pubmed、論文‡	7	19.4%	1	9.1%	5	20.8%	0	0.0%
研修会資料‡	1	2.8%	0	0.0%	1	4.2%	0	0.0%
市作成の資料‡	1	2.8%	0	0.0%	1	4.2%	0	0.0%
その他‡	2	5.6%	0	0.0%	2	8.3%	0	0.0%
6. その他	3	2.5%	0	0.0%	3	3.4%	0	0.0%

欠損値を除いて集計(有効回答者数n=122)

* 有効回答者数n=96

† 有効回答者数n=33

‡ 有効回答者数n=36

表4-2 栄養・食生活支援で困った際の対応(職種別)

	管理栄養士・ 栄養士 (n=52)		保健師 (n=6)		看護師 (n=8)		保育士 (n=16)		幼稚園教諭 (n=5)		調理員 (n=6)		医師 (n=3)		歯科医師 (n=1)		歯科衛生士 (n=3)		施設長・ 副施設長 (n=23)	
内容	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
1. 同じ施設内の同職種に相談する	27	51.9%	5	83.3%	0	0.0%	11	73.3%	5	100.0%	4	66.7%	2	66.7%	1	100.0%	2	66.7%	13	56.5%
2. 同じ施設内の他職種に相談する	42	80.8%	6	100.0%	8	100.0%	13	86.7%	1	20.0%	4	66.7%	2	66.7%	1	100.0%	3	100.0%	17	73.9%
園長・副園長*	5	12.2%	0	0.0%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%
上司・主任*	4	9.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.3%
保育士*	18	43.9%	2	33.3%	7	87.5%	2	14.3%	0	0.0%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	31.3%
看護師*	17	41.5%	1	16.7%	3	37.5%	2	14.3%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	18.8%
保育教諭*	2	4.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
管理栄養士・栄養士*	13	31.7%	4	66.7%	4	50.0%	8	57.1%	1	100.0%	0	0.0%	1	50.0%	1	100.0%	1	33.3%	6	37.5%
保健師*	4	9.8%	2	33.3%	0	0.0%	2	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	1	100.0%	1	33.3%	2	12.5%
調理員・調理師*	8	19.5%	0	0.0%	1	12.5%	3	21.4%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	3	18.8%
歯科衛生士*	3	7.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	1	6.3%
歯科医師*	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%
医師*	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%
その他*	1	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	21.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	12.5%
3. 施設外で幼児の栄養・食生活支援に関わる同職種に相談	30	57.7%	0	0.0%	2	25.0%	2	13.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	26.1%
市区町村内の別の保育園 [†]	14	56.0%	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	75.0%
系列/同一法人内の別の保育園 [†]	4	16.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
市区町村役所・役場 [†]	6	24.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保健センター [†]	3	12.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
保健所 [†]	3	12.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
別の保健センター [†]	1	4.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
市区町村外 [†]	1	4.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%
その他 [†]	4	16.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
4. 施設外で幼児の栄養・食生活支援に関わる他職種に相談す	3	5.8%	1	16.7%	0	0.0%	2	13.3%	1	20.0%	0	0.0%	1	33.3%	1	100.0%	0	0.0%	11	47.8%
5. 自分で調べる	33	63.5%	2	33.3%	4	50.0%	4	26.7%	3	60.0%	0	0.0%	2	66.7%	1	100.0%	0	0.0%	8	34.8%
インターネット [‡]	14	60.9%	1	100.0%	1	100.0%	1	50.0%	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	66.7%
書籍・雑誌(一般・その他) [‡]	8	34.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
書籍・雑誌(専門) [‡]	2	8.7%	1	100.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	33.3%
厚生労働省ガイドライン等 [‡]	7	30.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	16.7%
母子衛生研究会 [‡]	2	8.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%
小児歯科学会 [‡]	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
Pubmed、論文 [‡]	4	17.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	1	100.0%	0	0.0%	1	16.7%
研修会資料 [‡]	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
市作成の資料 [‡]	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他 [‡]	1	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
6. その他	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	8.7%

欠損値を除いて集計(有効回答者数n=122)

* 有効回答者数n=96

† 有効回答者数n=33

‡ 有効回答者数n=36

表5 支援ガイド案のわかりやすさ

		①「2. 幼児期の栄養・食生活をめぐる状況」 (p.2～9)		②「3. 幼児期の栄養・食生活についての基本事項及び枠組み」(p.10～11)		③図「子ども・保護者の栄養・食生活の課題の改善のための支援の方向性」(p.12)		④「4. 幼児・保護者の栄養・食生活の課題の改善のための支援の考え方と方向性」 (p.13～24)		⑤「5. 幼児期の栄養・食生活支援の取組(好事例)の紹介」 (p.25～57)	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
全体(n=123)	わかりやすい	77	63.1%	94	79.0%	93	78.2%	91	74.6%	110	90.9%
	わかりにくい	45	36.9%	25	21.0%	26	21.8%	31	25.4%	11	9.1%
施設種類別											
母子保健施設 (n=28)	わかりやすい	11	39.3%	18	64.3%	18	66.7%	19	67.9%	23	82.1%
	わかりにくい	17	60.7%	10	35.7%	9	33.3%	9	32.1%	5	17.9%
保育・幼児教育施設 (n=89)	わかりやすい	62	69.7%	72	83.7%	71	81.6%	69	77.5%	83	94.3%
	わかりにくい	27	30.3%	14	16.3%	16	18.4%	20	22.5%	5	5.7%
その他 (n=5)	わかりやすい	4	80.0%	4	80.0%	4	80.0%	3	60.0%	4	80.0%
	わかりにくい	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%	2	40.0%	1	20.0%
職種別											
管理栄養士・栄養士 (n=51)	わかりやすい	34	66.7%	38	74.5%	40	80.0%	35	68.6%	45	88.2%
	わかりにくい	17	33.3%	13	25.5%	10	20.0%	16	31.4%	6	11.8%
保健師 (n=6)	わかりやすい	3	50.0%	6	100.0%	5	83.3%	6	100.0%	6	100.0%
	わかりにくい	3	50.0%	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
看護師 (n=8)	わかりやすい	3	37.5%	7	87.5%	7	87.5%	8	100.0%	8	100.0%
	わかりにくい	5	62.5%	1	12.5%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
保育士 (n=16)	わかりやすい	12	75.0%	13	81.3%	12	75.0%	13	81.3%	16	100.0%
	わかりにくい	4	25.0%	3	18.8%	4	25.0%	3	18.8%	0	0.0%
幼稚園教諭 (n=5)	わかりやすい	2	40.0%	4	80.0%	4	80.0%	4	80.0%	4	80.0%
	わかりにくい	3	60.0%	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%
調理員 (n=6)	わかりやすい	6	100.0%	6	100.0%	6	100.0%	6	100.0%	6	100.0%
	わかりにくい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
医師 (n=3)	わかりやすい	2	66.7%	2	66.7%	2	66.7%	2	66.7%	1	33.3%
	わかりにくい	1	33.3%	1	33.3%	1	33.3%	1	33.3%	2	66.7%
歯科医師 (n=1)	わかりやすい	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%
	わかりにくい	1	100.0%	1	100.0%	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%
歯科衛生士 (n=3)	わかりやすい	1	33.3%	2	66.7%	2	66.7%	2	66.7%	3	100.0%
	わかりにくい	2	66.7%	1	33.3%	1	33.3%	1	33.3%	0	0.0%
施設長・副施設長 (n=23)	わかりやすい	14	60.9%	16	80.0%	15	71.4%	14	60.9%	21	95.5%
	わかりにくい	9	39.1%	4	20.0%	6	28.6%	9	39.1%	1	4.5%

欠損値を除いて集計

表6-1 「わかりにくい」の自由回答分析結果①

n= 112

項目	カテゴリー	件数	わかりにくい内容(記載例)	母子保健	保育・幼児施設	その他
全体(P2～9)	構成に対する疑問(この項目がなぜガイドのトップにあるのか)	1	「支援ガイド」の冒頭が調査結果をそのまま？並べるのは構成上違和感を感じてしまいました。なぜ、この項目をガイドブックのトップに持ってきたのかと思いました。	○		
	構成に対する意見(基本的事項との整合性)	1	1)調査結果の項目と2)基本事項の枠組みが連動して表記されるとさらに良いと思いました		○	
	調査の対象年齢等概要がわからない	5	H27乳幼児栄養調査の対象年齢等を本文はじめにあると、後のデータが読みやすい。	○	○	
	年齢区分が不明	2	内容は分かりやすいのですが年齢区分が不明なので利用しにくい印象です	○		
	文章と図があっていない	1	説明文からグラフのどの部分について説明しているのか読み取りにくい	○		
	文章と図の内容が重複している	1	図を見て読み取れることや下線部分と同一の内容が記載されているため、重複感がありました。長文を読んでもすでに書かれているように、図で示していないデータの結果やそれと関連付けた分析結果、新たな情報を中心に記載していただけると嬉しいです	○		
	文章がわかりにくい(文章全般)	2	数字が苦手なので問題点を認識するまでに時間がかかりました。P7 5)(1)のような解説だとわかりやすいです	○	○	
	図が見にくい(色)	3	白黒印刷のため、グラフが見にくい。	○	○	
	図が見にくい(文字の大きさ)	3	図の中の小さい字は見づらい		○	
	図が見にくい(大きさ、色)	1	全体的にグラフの字が細かく、色分け等もはっきりとわかりづらい。		○	
	図が見にくい(凡例)	1	色が似ているため、項目が判別しにくい	○		
	図は不要	1	乳幼児栄養調査の報告書に記載されている図(グラフ)をそのまま貼っている？ためか全体的に見にくい。図は不要。下線が引いてある部分だけでも十分ではないか。足立区の子どもの健康・生活実態調査の報告書(概要版)等の方が見やすく参考になるのではないか		○	
目次	目次と本文があっていない	1	目次と項目と内容があっていないのでは？		○	
1)子どもの発育・発達・健康について(P2～3)						
(1)子どもの肥満度、及び保護者の子どもの体格に関する認識	記載内容に対する疑問(肥満度ではなくカウプ指数で示す方がよい)	2	いつも肥満ややせについてはカウプ指数で判断していたので、肥満度の感覚がつかめなかった	○		○
	文章と図が合っていない	1	文章では、肥満・普通・やせの割合が記入してありますが、表であるよりわかりやすいです。文章と表の見方が一致せず、わかりにくいです。		○	
	文章がわかりにくい(全体的に)	1	書き方がわかりにくいです		○	
	文章がわかりにくい(体格と認識のつながり)	4	認識と実際がすぐに読み取れなかった	○		
	文章がわかりにくい(何が言いたいかわからない)	2	3割4割の結果、何が言いたいのか分かりませんでした。「肥満傾向、やせ傾向の子どもの親はずれが大きいので指導を徹底した方がよい」と言いたいのか	○		○
	文章がわかりにくい(その他)	1	助詞の使い方:肥満度がふつうの子どもの保護者の3割は～むし歯のある子どもの保護者に～と回答	○		
	誤植がある(本文;ふつうよい→ふつうより)	4	ふつうよい→ふつうより		○	
	図が見にくい(文字の大きさ)	3	グラフの数字が見えない		○	
	図が見にくい(色)	2	表がグレースケールなので全体的によみとりにくい	○	○	
	図が見にくい(その他)	1	肥満度の認識と実際の肥満の割合の図		○	
	記載内容に対する意見(年齢別の記載)	2	虫歯の有無、対象年齢別の方が比較しやすい	○		
	文章と図があっていない	3	むし歯がある割合の表がほしい 「94.2%がふつうである」という図がない	○	○	
	文章がわかりにくい(全体的に)	1	むし歯についての話ではなく、間食の与え方の話だと思うので「間食の与え方とむし歯の関係」等、間食の与え方の方が先に来る方がよいのではと思うし、虫歯で語るのは難しいと思います。	○		
(2)むし歯の有無別 間食の与え方	文章がわかりにくい(何が言いたいかわからない)	1	間食の与え方を聞きたいのか？虫歯についての話なのか？	○		
	図がきれいている	1	グラフの右側見えない		○	
	文章と図があっていない	6	文章と図が相対していない	○	○	
	他の資料と相違がある(アレルギー症児の子ども)	1	アレルギー症状の子どもの割合が厚労省健康局のデータとかなりの相違があるが理由がわからない	○		
	文章がわかりにくい(図の説明)	1	文章の内容をグラフからすぐに読み取れないものがある		○	
(3)食物アレルギーの状況	図に必要な記載がある	3	グラフの真ん中の図36②③,図36④はどこを指しているのか	○	○	
2)子どもの食事・間食・飲料について(P3～5)						
(1)現在の子どもの食事 で困っていること	文章と図があっていない	2	文章の数値とグラフの数値が異なりわかりにくい		○	
	記載内容に対する意見(年齢別の記載)	1	子どもの食事で困っていることが一番多い年令が、2～3才であることを文章に記載してほしい。		○	
	図が見にくい(大きさ)	1	表が細かくて、わかりづらい。表を大きくするか、カラーにすると分かりやすくなる。		○	
(2)子どもの主要食物の 摂取頻度	文章と図があっていない	5	「食品群別1日1回以上摂取するものの割合」他食品に比べ少ないものに魚、肉、大豆、大豆製品とあるが卵は入らない	○	○	
	文章がわかりにくい(書き方)	1	4行目以降の摂取頻度についての%の提示が品目の後がより分かりやすい(例:穀類97%、お茶など甘くない飲料84%)		○	
	図が見にくい(凡例)	6	各項目と%の部分がどこを指しているのかわかりづらい	○	○	
(3)子どもの間食の与え方	文章がわかりにくい(全体的に)	1	私の読解力の問題かもしれませんが、文章からグラフを読み取るのが難しい感じがしました。		○	
	誤植がある(本文;でが青字)	1	「43.7%であった」の「で」が青字になっている		○	

表6-1 「わかりにくい」の自由回答分析結果①(つづき)

項目	カテゴリー	件数	わかりにくい内容(記載例)	母子保健	保育・幼児施設	その他
3)子どもの食を食べる環境について(P5)						
(1)共食(朝食・夕食)の状況	文章と図があていない	1	データの基準が不明。例:子どもだけの食事割合が朝食22.8%となっているが、どの部分なのか不明		○	
	文章がわかりにくい(健やか親子21の%の算出)	3	健やか親子21の朝食95.2%、夕食99.7%がどこから来たのかわかりにくい。	○	○	
4)子どもの生活習慣について(P6~7)						
(1)子どもの起床時刻・就寝時刻別(平日・休日)朝食を必ず食べる子どもの割合	他の項目の内容と整合性がとれていない	2	P.6(1)とp.8(2)の起床、就寝時間の割合がちがう。	○	○	
	文章と図があていない	1	朝食の共食状況別にみると…の文→データなし?どこをみれば良い?		○	
	誤植がある(本文;起床時間→起床時刻)	1	起床時間→起床時刻		○	
(2)運動と身体活動の状況	文章と図があていない	1	データの基準が不明。例:60分の運動がとれている子が70.0%とあるが強度と時間の関係が不明		○	
5)子どもの食生活と保護者の生活習慣や社会経済的状況との関係について(P7~9)						
(1)子どもの食事で気を付けていること	文章が分かりにくい(下線部)	2	下線部分→データからは読み取れなかった、他のデータとの比較?		○	○
	文章がわかりにくい(その他)	1	助詞の使い方:親が子どもの食事(で)気をつけている(項目)の文章		○	
	他の下線部との整合性が取れていない	2	子どもの食事で気を付けていることで下線で書かれている内容が“評価”になっている。ここでは客観的事実の記載のみにした方がよい。		○	
(2)子どもと保護者の起床・就寝時刻	図が見にくい(大きさ)	1	表が細かくて、わかりづらい。表を大きくするか、カラーにすると分かりやすくなる。		○	
	図が見にくい(色)	2	白・黒のため子どもの就寝時刻の色別がわかりにくかった		○	
	文章と図があていない	1	子どもと保護者の起床時間についての表がみあたりません	○		
(3)子どもと保護者の朝食習慣	文章と図があていない	1	グラフ→子ども欄の93.3%,5.2%、保護者欄の81.2%,10.6%…なんの%値なのかがグラフ内に記載されていません		○	
	記載内容に対する意見(朝食習慣)	1	朝食習慣:意外と食べているのでは?			○
	文章がわかりにくい(その他)	1	助詞の使い方:家庭の子ども(は) 者はいらない		○	
	誤植がある(本文;一方の後の。)	1	下から6行目…一方“。”		○	
(4)社会経済的要因別の主要な食物の摂取頻度	文章と図があていない	2	果物、菓子(菓子パン含む)、インスタントラーメンやカップ麺は、グラフが掲載されていないが良いのか?		○	
	言葉の意味がわからない(経済的なゆとり)	1	経済的ゆとりとは?世帯年収?それとも主観?		○	
	文章がわかりにくい(その他)	1	野菜は経済的ゆとりがない家庭での摂取量がすくないのか		○	
	図が見にくい(大きさ)	3	文章の内容はわかりやすいですが、グラフが細かくて見にくかったです。経済に特化するか、総合的な暮らしに対しての摂取頻度でもよいかと思います		○	
	図が見にくい(色)	2	表が見にくい。網掛けがはっきり区別できてない		○	

表6-2 「わかりにくい」の自由回答分析結果②

				n= 66		
項目	カテゴリー	件数	わかりにくい内容(記載例)	母子保健	保育・幼児施設	その他
全体(P10～11)	タイトルと内容が合っていない	1	ネガティブな内容で記述されている(タイトルは基本事項であり心配事ではない)		○	
	文章と図の内容が重複している	3	P10にも同じようなことが記載されているのでP10だけでもいいのかなと思いました	○	○	
	文章と図が合っていない	1	図と各項目がリンクするように書かれていて良い(図にかかれてはいる項目と文章が一致しない部分があり、わかりにくい) 例)P11「精神的健康」→図「精神的」(用語の統一) 例)P11「発達特性」→図 どこにあてはまるのか？	○		
	文章がわかりにくい(説明が足りない)	2	課題等の列挙のみであり、子どもたちの食生活について何も目指すものが見えない	○		○
	文章がわかりにくい(主語)	2	「子どもの心配ごと」が〈現状〉〈親の心配〉〈母子に関わる専門職〉のどの視点で整理されたかわかりにくい。前段で調査結果があるので特に感じました。	○	○	
	文章がわかりにくい(記載の仕方)	1	P11の理由は箇条書きの方がわかりやすいかなと思います		○	
3幼児期の栄養・食生活についての基本事項、及び、理論的枠組み(P10)						
	タイトルと内容が合っていない	2	文章の中身には幼児期の栄養・食生活の課題がかかっている。基本事項という言葉とはニュアンスが異なるように感じる。	○		
	文章がわかりにくい(説明が足りない)	3	3行目、「基本的な栄養・食生活」とは、P1の「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活」と理解してよいのでしょうか。「基本的な」の意味(定義？思い？)について説明があると読み手に左右されないのではと感じました。ほかのところで定義されていたら申し訳ありません。	○		
	文章がわかりにくい(主語)	1	保護者の心配ごと・・・本人でこと？ 図から見てってこと？		○	
図 子どもの栄養・食生活の心配ごと及び保護者の課題(P10)						
	記載内容に対する疑問(主語)	1	子どもの心配ごと・・・どちらの心配ごと？ 図から見た？ 保護者から見た？ それとも合わせて？		○	
	記載内容に対する疑問(食事をつくる力)	1	P10図の「食事をつくる力」に書かれている「食べ物に関心がない」「食材の栽培体験がない」は「つくる力」ではないと感じる		○	
	記載内容に対する疑問(生活のリズム等)	1	自身の生活の理解(生活のリズム・食生活スタイル)・・・他がネガティブに表現されているので「生活リズムが乱れている」とか？		○	
	図がわかりにくい(構成)	10	P10(1)～(4)の横軸が図の左から右へ流れる方が分かりやすい	○	○	
	図がわかりにくい(読み取りにくい)	2	図が分かりにくく、文章だけでもよいのでは	○	○	
	図がわかりにくい(記載の仕方)	1	心配ごととしての記載なので、ネガティブだと思うし、めざすところがわからない		○	
	図がわかりにくい(言葉の意味)	2	「食事・間食のタイミングが遅い」と「食生活スタイル」と「食事と間食に気をつけていない」と「生活リズム」の違いがわからない		○	
	図がわかりにくい(矢印)	3	関係性の矢印(なぜそこに関連付けたか)が記載されていないので、各自の自由な解釈になってしまう可能性があります。きちんとした理由があつて矢印をつけていらっしゃると思いますので、説明を追加していただきたいです。こういった部分について、しっかりとガイドに記載されていると、関係職種への説明がしやすくなると思います。	○		
	図が見にくい(色)	1	図が白黒だと分かりにくい		○	
1)子どもの心配ごと(P10～11)						
(1)発育・発達・健康	上付番号(文献番号)の意味がわからない	1	p10 1)タイトルの4-6)は何を指しているのかがわかりません。		○	
	文章がわかりにくい(主語)	2	子ども自身の問題なのか？ 保護者の問題なのか？ が入り混じっていてわかりにくいと思う		○	
	文章がわかりにくい(説明が足りない)	3	「食事が楽しくなさそう」「食事が美味しくなさそう」「安心できない」「食事が安全でない」は誰が感じているのでしょうか？ そして具体的にどのような状態でしょうか？		○	
	文章がわかりにくい(その他)	1	p11精神的健康→食事が安全でない(詳細不明)		○	
	記載内容に対する疑問(仕上げ磨き等)	3	子どもの心配ごとの口腔機能の部分で「・歯が痛い・・・等」の中に「・仕上げ磨きをしていない」の項目があるが、子どもの問題なのか？ 子どもの問題だったら「歯磨きや仕上げ磨きを嫌がる」とかがふさわしいのか？		○	
	文章と図が合っていない	2	「発達特性について」文章に記載がありますが、P10の図に記載されていません		○	
(2)食事・間食、飲料	文章がわかりにくい(主語)	1	「食べる量が少ない・多い・むら食い」は子どものことで、「食事・間食の回数が多い・少ない、飲料の種類と量を管理していない」は保護者の問題と思うので区別した方が分かりやすいのではと思う		○	
	文章がわかりにくい(その他)	1	p11(2)食事、間食、飲料→～について把握する(詳細不明)		○	
(3)食事への関心・行動	文章がわかりにくい(説明が足りない)	3	食事をつくる力の説明がP11 18行目から書いてありますが、料理することと勘違いしやすいかもと思う		○	
	文章がわかりにくい(記載の仕方)	1	順番として「食事を食べる力」が最初にした方が理解しやすいと思う		○	
	記載内容に対する疑問(食事をつくる力)	2	「食事をつくる力」に、なぜ関心などの気持ちが入るのかわからない 行動と意識(感情？ 気持ち)は別のものではないか		○	
	記載内容に対する疑問(速く食べる)	1	P11(3)食事への関心・行動 上から4行目・・・速く食べる→早く では？		○	
	記載内容に対する意見(食事を選べる力)	1	食事を選べる力も大切だと思いますが、どんなものでしょうか？		○	
	文章がわかりにくい(記載の仕方)	1	P11の(2)～(4)の～1行目「把握する」とありますが、課題を整理した結果に、「把握した」という事実ではなく「把握する」という作業がある理解できませんでした。	○		
2)保護者の課題(P11)						
	文章がわかりにくい(説明が足りない)	1	30行目「食事づくりが不得意である」は課題なのですか？ どのような状態をめざせばよいでしょうか？		○	
	文章がわかりにくい(記載の仕方)	1	課題の記載の順序として、①子どもと一緒に食事を食べる(食べていない)②生活リズム・・・③子の主体性・・・④子どもと一緒に・・・⑤食事づくり・・・とか重要なことから記入した方が分かりやすいと思う		○	
	記載内容に対する疑問(子の主体性)	2	「子の主体性」とは何ですか？		○	
	記載内容に対する意見(経済的な課題)	1	この項目の他、経済的な課題もあるのではないかと思います また、保護者の栄養に関する知識が無いことも常に感じています		○	

表6-3 「わかりにくい」の自由回答分析結果③

n= 37

項目	カテゴリー	件数	わかりにくい内容(記載例)	母子保健	保育・幼児施設	その他
図 保護者の心配ごとに耳を傾ける全体(P12)	タイトルと図の内容があっていない	1	保護者の心配ごとに耳を傾けるイメージをもう少し整理した方が良いでしょう		○	
	用語の使い方に対して疑問(家族)	1	・図の家族の中に子ども、父親、母親とありますが、家族の形はさまざまであると思います。さらにこのガイドを活用するのが保健医療従事者や児童福祉関係者等と想定しているので、この限定的な表現はあまりふさわしくないのかなと感じました。P16、17、18の図も同様です。	○		
	言葉の意味が分からない(QOL)	1	QOL(生活の質)とは？		○	
図 子ども・保護者の栄養・食生活の課題の改善のための支援の方向性(P12)						
全体	用語が統一されていない(子)	2	子と子どもの混在		○	
	用語が統一されていない(保護者)	1	1)～5)の中で「親」という表現がされている「保護者」との表現の違いがわかりにくい		○	
	P13以降の文章とあっていない	2	支援者の活動内容とP13～の内容が対応していない部分があるため、対応しているとよい	○		
	図がわかりにくい(全体的に)	2	記載してある内容は伝わるが、内容レベルがバラバラであることは気になる	○		○
	P10の図と同じである	1	P10とP12の図ほぼ同じ.内容がまとまるとよい		○	
	図がわかりにくい(構成)	13	図の横軸を左から(1)～(4)にある方が見やすい	○	○	○
	図がわかりにくい(矢印)	2	矢印の意味がわかりづらい。		○	
	図がわかりにくい(文字)	1	親・子の太線(太字)の意図		○	
	図が見にくい(色)	2	図 重要な部分は赤字などカラーの方がよい	○	○	
子どもの心配ごと	図がわかりにくい(主語)	1	子どもの心配ごとは、だれの視点か	○		
保護者	図がわかりにくい(言葉の意味)	2	「子の主体性を大切にしていない」とはどんな状態ですか？		○	
	図がわかりにくい(主語)	1	「保護者」は保護者の問題点なのか。保護者の視点なのかわからない。	○		
支援者の活動	図がわかりにくい(言葉の意味)	1	資源等の活用方法を理解してもらおう…という意味でしょうか	○		
保護者、支援者の活動	言葉の意味がわかりにくい(発達特性)	3	発達特性とは何ですか？		○	

表6-4 「わかりにくい」の自由回答分析結果④

項目		件数	わかりにくい内容(記載例)	母子保健	保育・幼児施設	その他
全体(P12～24)						
	タイトルが長い	1	タイトルが長いのでもう少し簡潔だとい		○	
	文章が具体的にでない	1	具体の支援内容に触れてほしい			○
	統一感がない	1	全体として支援(～を確認する、伝える)の仕方の記載と子どもの姿に成長の様子を記載しているものがあり、統一感がない		○	
	イラストや図をもっと入れてほしい	1	全体的に文章を補足するためのイラスト図を修正するともっと良くなる気がします		○	
	記載内容に対する意見(小児口腔育成の考え方)	1	口腔機能に関しては咬合の状態や歯列の状態が関連していると思われるので、小児口腔育成の考え方を参考にされたい		○	
	その他	2	簡潔で分かりやすいが一文ずつの完結で助詞を用いてつなげていくとよりスムーズに内容が入っていくのかと思う		○	
	記載内容に対する意見(図と文章のつながり)	1	1).2).3).4)について詳述しているページ番号を12ページのそれぞれの部分に記載してあった方が知りたい情報にアクセスしやすいと思います		○	
全体(P13～14)	記載内容に対する意見(イラストや図の活用)	1	保護者に理解を促す方法が具体的にでない。例えば、フードモデルで示すなら実際にフードモデルの写真に掲載する。幼児版食事バランスガイドをのせるなど特にここにもっと重点をおいてつくってほしい	○		
全体(P13～16)	文章が具体的にでない	1	17ページ以降の地域や他職種、他機関との連携体制を整える為の考え方は記述が充実しているが、保護者、子どもに向けた具体的なアプローチに関して内容が薄いと感じた。		○	
1)保護者に、子どもの身体的・精神的健康・航空機能の発達特性を確認してもらい、正しく理解してもらう(P13)						
	文章と図が合っていない	1	・P11の1)(1)やP12の図では、発達特性と記載がありますが、こちらの文章では口腔機能の発達特性と記載されています。支援の考え方や方向性の部分でも発達特性について触れてほしいです	○		
	文章がわかりにくい(記載の仕方)	1	特定の場合について下線を引いていますが、箇条書きの方が端的でわかりやすいと思います		○	
	記載内容に対する疑問(食物アレルギーのある者)	1	「食物アレルギーのある者」を「食物アレルギーの疑いがある者」ではなく「食物アレルギーのある者」と断定している根拠を知りたいです。「食物アレルギーのある者」と誰が思うのでしょうか？		○	
	記載内容に対する意見(曖昧な表現は避けるべき)	2	「むし歯と間食との関わりで～よいかもしれない。」という表現は曖昧に感じました。そういった表現があると少し活用しづらいです	○		
	記載内容に対する意見(情報の氾濫により保護者の判断で勝手に食物除去する例)	1	保護者に、子どもの身体的・精神的健康・口腔機能の発達特定を確認してもらい、正しく理解してもらう項目の中に「食物アレルギーのある者に…」の記入がありますが、“「保育所における食事の提供ガイドライン(厚生労働省平成24年3月)」のp53に記載されている”「近年、インターネット情報や様々な情報が氾濫しており、そのような情報で保護者の判断により勝手に食物を除去している場合がある」等の記載があり、現場ではこちらの事例も多く、同様な文面を入れていただけることを希望します		○	
	上付番号(文献番号)の意味がわからない	1	最後文の6)は何を指しているのかがわからないです。		○	
2)子どもは、周りの大人から食事や食事の食べ方を学ぶ。保護者に、子どもの食事・間食・飲料への関心を持ってもらい、子どもの食事量、食べ方の特徴を理解してもらう(P13～14)						
	記載内容に対する疑問(多様な食品)	1	経験の浅い人には多様な食品がどのようなものなのかわかりにくいように感じた。発達の課題のある子には多様な食品を食べさせるのは難しい。	○		
	文章がわかりにくい(説明の順番)	3	「関心を持ってもらい、理解をしてもらう」とあるので、まず、関心を持ってもらう方法に記載していただいた上で、理解してもらう上でのポイントが記載されていると表題通りだと思いました。理解してもらうためのポイントは概ねわかりやすいと感じました	○		
(1)離乳食の完了、幼児食への移行	記載内容に対する疑問(牛乳・乳製品)	1	牛乳乳製品～説明するーこの食品のみ提示する意味		○	
	記載内容に対する疑問(卒乳)	2	離乳食を完了、卒乳していくことを伝える→それぞれのタイミングではと思います。	○	○	
(2)食品の種類と組み合わせに気を付ける	記載内容に対する意見(いろいろな食品を楽しませる)	1	「色々な食品を楽しませる」の言い方はどうなのか。「楽しめるようにする」「経験する」などにしてほしい		○	
(3)間食の時間、内容、量は適切か	文章がわかりにくい(記載の仕方)	1	ほかの項目と表現が異なる		○	
	記載内容に対する疑問(間食)	2	間食について、補う内容としての位置付けだけでなく「楽しむ、要素もあることを一言入れてほしい。		○	
(4)咀嚼機能と調理形態との関係を確認してもらう	記載内容に対する疑問(速食い)	3	速食いー早食いでは？	○	○	
	記載内容に対する意見(野菜に果物を加筆)	1	野菜に果物を加える		○	
	記載内容に対する意見(食卓にはさまざまな硬さが並ぶと良いことを加筆)	1	子どもは咬筋の予測に従って食べることが多い。ごはんなどをよく噛ませたいときには、直前に子の好きな食材のうち比較的よく咬んでいる物を与えると続くご飯もよく咬む。食卓にはさまざまな硬さが並ぶと良いことを入れてはいいかがでしょうか。	○		
	記載内容に対する意見(月例、年齢別の目安、指標など)	1	月例、年齢別の目安、指標などであると良い 歯の萌出状況によっても咀嚼機能が随分異なる	○		
	記載内容に対する意見(その他)	1	“食事の様子”だけでなく、具体的な食べる姿があると分かりやすい		○	
3)子どもの食事への関心・行動変容を促す。そのために、保護者・子どもの食事づくり力、食事を食べる力を向上させる。(P14～15)						
	文章がわかりにくい(説明が足りない)	1	「子どもの食事への関心・行動変容を促す。そのために、保護者・子どもの食事づくり力、食事を食べる力を向上させる」この項は、園から家庭へのアドバイスのことを書いている？(1)～(5)の文体がらがうためわかりにくい		○	
	言葉の意味がわからない(食事づくり力)	1	食事づくり力とは？		○	
	記載内容に対する意見(その他)	1	スプーンを口に入れるのではなく、子どもが自ら食べようと口を持っていく力をつけさせたい			○
(1)噛むことを経験する	文章がわかりにくい(文のつながり)	1	小食～確認する。“噛む”と“小食”のつながり		○	
	文章がわかりにくい(記載の仕方)	1	この文体なら箇条書きでは？		○	
	記載内容に対する疑問(手づかみ食べ)	1	手づかみ食べは幼児期より乳児期だと思う		○	
	記載内容に対する意見(表現方法)	1	噛むことを体験「させていくようにする」、「教えていく」→「伝えていく」の方が良いのでは？		○	
	記載内容に対する意見(手でつかむことを嫌がる児への対応を加筆)	1	手でつかんだり、さわることを嫌がる児も多い。その時の対応についても記載してほしい。	○		
	記載内容に対する意見(前歯でかじり取ることと咀嚼のつながりを加筆)	1	・前歯でかじり取ることがどのように咀嚼につながるのかというメカニズム的なところを書いていただけるとより深い理解につながると感じました	○		
(2)自分から進んで食べる	記載内容に対する意見(内容の充実)	1	「自分から進んで食べる」の分析をもっと入れてほしい。食環境の工夫、栽培活動、空腹と満腹の生活リズムなど		○	
(3)食事の適量を理解し、小食、偏食を減らす	誤植がある(子どもが欲しがるままに →子どもが欲しがるままに)	1	子どもが欲しがるままに →子どもが欲しがるままに		○	
	不要な用語がある	1	「しかし、調理方法」の、しかし、はいらないのでは？		○	
(4)食具(スプーン、フォーク、箸等)の使い方を学ぶ	文章がわかりにくい(文のつながり)	2	また、～主体的に関わるようになっていく のつながり	○	○	
	記載内容に対する意見(食べたがる意欲)	2	食べたがる意欲→食べたいという意欲 の方がわかりやすい		○	
(5)一緒に食事・間食をつくる	記載内容に対する疑問(食事の楽しさ)	1	食事の楽しさが「食生活全体の良好な状態」や「調理などの関わる」と読みとれるが、逆ではないか。		○	
(6)様々な人との共食を楽しむ、楽しく食べる	文章がわかりにくい(説明が足りない)	1	楽しく食べる、情報交換→具体的な内容の提示があると分かりやすい		○	
	文章がわかりにくい(その他)	1	例えば、～以下の文、例えばの文はどこまでか？～芽ばえるというような声かけ(説明)をするということか		○	
	用語の使い方に対して疑問(仲間)	1	「仲間」とは、家族のこと？園であれば仲間、家であれば家族		○	

表6-4 「わかりにくい」の自由回答分析結果④(つづき)

項目	カテゴリー	件数	わかりにくい内容(記載例)	母子保健	保育・幼児施設	その他
4)子どもの生活習慣を見直し、保護者と子どもの生活習慣の関係を理解してもらう(P16)						
	文章がわかりにくい(文章が似ている)	2	“3歳ごろになると、食事のリズムを生活リズムの確立に利用できるよう支援する”の部分が1.6歳児頃の文章と続きで読んでいると同じフレーズが続き読みにくさを感じた。3歳児頃になっても、1.6歳児と「食事のリズム～支援する」は同じであり、具体的な部分を読んで違いに気づけた	○	○	
	文章がわかりにくい(説明が足りない)	1	・「子どもの時間に合わせた生活リズム」「子どもの時間に合わせた規則的な生活リズム」とありますが、「子どもの時間に合わせた」の意図が伝わりづらいと感じました。子どもの時間に合わせた＝子ども本位ではないと思うのですが、誰もが勘違いしないためにも、どのような状態かを記載(定義)していただけるとわかりやすいです。	○		
	文章がわかりにくい(記載の仕方)	2	保護者が自身の～ →保護者自身の生活習慣が子どもの食生活にもたらす影響を理解していないとき の方が分かりやすいです		○	
	用語の使い方に対して疑問(1.6歳)	3	1.6歳児→1歳6ヶ月児頃とした方が分かりやすい		○	
	記載内容に対する意見(6歳児は就学が近いことを加筆)	1	「6才頃には」の後に「就学が近いことも意識し、」を入れたい。		○	
	記載内容に対する意見(朝機嫌よく起きられるような生活リズムを確立する方法を加筆)	1	1.6歳頃には、朝機嫌よく起きられるような生活リズムを確立～とありますが、1.6歳に限定する根拠があれば教えていただきたいです。また、朝機嫌よく起きられるような生活リズムを確立する方法の記載があると理解が深まると感じました	○		
	不要な数字がある	1	(1)1.6歳児～とありますが、2はあるのでしょうか？		○	
図 子どもの食事への関心・行動変容を促すための保護者・子どもの食事づくり力、食事を食べる力の向上	図がわかりにくい(説明が必要)	1	P16の図のタイトルから、P14の3)の内容と思ったのですが、図を見ると、1)～4)をまとめた図であると読み取りました。図が唐突に出てきたため、図についての説明がほしいです。	○		
5)子ども、保護者の食生活支援のために組織内の他職種と連携し、地域の様々な組織・団体と連携する(P17)						
	文章がわかりにくい(連携)	1	他機関と連携するのは図を見ると保健所、都道府県？保育所、幼稚園等と連携とすると市町村保健センターがうかび、どこを主としてのポイントか理解がしにくい部分があった		○	
	上付番号(文献番号)の意味が分からない	1	5)タイトルの7)と(1)タイトル 5)とP19 8.9)表の7-9)とP20 表の7.8)は何を指しているのがわからないです。		○	
P17以降	文章がわかりにくい(主語)	1	集団で実施される食育の取組は、誰が実施しているイメージでしょうか。この項目(P17～20)は、自治体のすることをまとめたと理解してよいでしょうか。その場合、P1の「そこで、～」に記載されている「保健医療従事者や児童福祉関係者等が支援を進めるに当たって共有すべき基本事項」の「共有すべき」事項なのか、「共有」のために「すべき」作業なのか、わかりにくい部分があるため、整理していただけるとありがたいです。	○		
	文章がわかりにくい(イメージしづらい)	1	地域との連携について、少しイメージしづらかったです。		○	
	記載内容に対する意見(保育所等)	1	保育所や幼稚園、現在はこども園もある。保育所等の表記はどうか。		○	
P17の図	図のタイトルがない	1	p17の図の題は何でしょうか？既存の事業を活用とはどのようなことですか？		○	
	図がわかりにくい(説明が必要)	1	P17の図が唐突に出てきたため、図についての説明がほしいです	○		
	図がわかりにくい(位置づけ)	1	家族と施設は接点があるのでは？(線がない) 下線が引いてあることの手立てであるなら並線など引いてもよいが時々下線が引かれた文があり、戸惑う。伝えたいのであれば分かりやすく示すと良い		○	
	図がわかりにくい(全体的に)	1	栄養の問題をかかえた家族に対し、どの機関が何をするのか各々の役割分担は何かがわかる連携図に。この冊子の対象が保育士、幼稚園教諭等であるが、栄養の問題をかかえた家族を担当する保育士がどのような機関と連携すればよいかわかる図にしたいだけと良いと思います(主人公は家族ではなく保育士で)この冊子の読者(支援者)			○
	図に対する意見(保健センターと地域子育て支援センターを隣り合わせに)	1	「子育て世代包括支援センター」があるため、保健センターと地域子育て支援センターはとなりの方がわかりやすい。	○		
(1)地域における栄養指導・食育の連携協力のポイント	文章がわかりにくい(説明が足りない)	2	「栄養指導・食育」という言葉が突然登場したため、丁寧に説明してほしいです	○	○	
	記載内容に対する疑問(現実とのギャップがある)	1	個人情報の問題で難しい。		○	
	記載内容に対する意見(認定こども園を加筆)	1	保育所、幼稚園、のあとに“認定こども園”を入れる		○	
図 地域における多機関の連携及び他職種の協力	図がわかりにくい(内容)	1	上の青丸は機関、下の青丸は専門職が書かれているが、それぞれの機関に専門職があり、同じ専門職でも所属している機関によっても役割が異なるので、この図からなにを伝えたいのかわからない。なにをわかりやすく伝えるための図なのか		○	
	図がわかりにくい(矢印)	1	⇔は何を表していますか？		○	
	記載内容に対する意見(歯科衛生士を追加)	1	歯科衛生士を追加してほしい。	○		
(2)地域性を考慮した栄養指導・食育への応用・展開	文章がわかりにくい(説明が足りない)	1	P18(2)最初の4行が理解できませんでした。「実施方法や評価方法を標準化することが難しい」とは、誰が標準化できないのでしょうか。市町村の実態に応じて進めることが重要であれば、市町村では、標準化の必要性は(ほとんど)ないと読み取りました。このガイドラインで、ということでしょうか。	○		
6)地域の様々な組織・団体と連携協力した取り組みモデルを作る (1)幼児健診をベースにしたモデル						
	文章がわかりにくい(説明が足りない)	2	「カンファレンス」「フォローアップ」:文言等、説明をお願いしたいです	○	○	
「幼児健診の間診票における子どもの発育に影響を及ぼす栄養・食生活の心配ごとの項目の例」	記載内容がわかりにくい	8	子どもの食事・間食・飲料の食事・間食の量「食事・間食の回数が多い・少ない」「間食の種類・量(お菓子を含む)…」」「飲料の類・量(甘い飲み物含む)…」と食事の内容の「食事と間食に気を付けていない」の違いがわからない		○	
	記載内容に対する疑問(虫歯がある等)	1	虫歯があると歯が痛いの違いは		○	
	記載内容に対する疑問(手作り体験等)	1	・「干し柿、漬物など、ひと手間かけた手作り体験がない」を指導する側の方々はしたことがあるのでしょうか？保護者の方々も経験があるのでしょうか？子どもが経験があるかどうかのチェックをする前に保護者が子どもに手作りの干し柿や漬物をつけてあげているかを確認すべきかと思うし、「料理作り(調理)の体験(お手伝い)をしていない」に含んでもいいのではないかと思います		○	
	記載内容に対する意見(離乳食について)	1	離乳食の作り方がわからない。タイミングがわからない。進め方がわからない。という保護者の声が多い。加えてもいいのではないか？		○	
	記載内容に対する意見(子どもの状態を把握する表現)	1	「歯が痛い」は「むし歯がある」、「仕上げ磨きをしていない」は「歯磨きや仕上げ磨きをしたがらない」等にと子どもの状態の把握になると思います		○	
	記載内容に対する意見(保育所→保育所等)	1	「保育所における食事状況や問題点の有無について、保育所から情報の提供がない」について、「保育所」となっていますが、こども園、幼稚園等は関係ない項目と思ってしまうのでしょうか？p22の表については、保育所等になっていますが記載を揃えるわけにはいかないのでしょうか？ここだけ保育所の問題になっていますが、「保育所における食事状況や問題点の有無について、聞くように心がけている等」保護者対応の文言の方がいいのではと思う。		○	
(2)都道府県・県型保健所におけるモデル	記載内容に対する意見(項目の順番変更)	1	「食事をつくる力」より「食事を食べる力」を先にした方がわかりやすいのではないかと思う		○	
	記載内容に対する意見(保育教諭を加筆)	1	専門職のスキルアップ… 保育士、幼稚園教諭、のあとに“保育教諭”を入れる		○	
図 保育所・幼稚園・認定こども園における食育活動の好事例モデルの例	誤植がある(張ったり一貼ったり)	1	保護者への啓発…張ったり一貼る？		○	
	図がわかりにくい(矢印)	1	水色の輪に繋がっている「生活リズム・生活習慣の調整」等に⇔(両側向きの矢印)で繋がっていますが、どのような意味をあらわしているのでしょうか？		○	
	図が見にくい(色)	1	中心の水色の輪は何を表していますか？その外側の白い部分はなにを表していますか？		○	
	用語の意味がわかりにくい	3	「意識の高い核となる推進者の存在」とは誰のことをいっているのでしょうか？		○	
	記載内容に対する疑問(料理作り、お手伝い)	1	食事のつくる力での料理作りとお手伝いの違い		○	
	誤植がある(保護者援→保護者支援)	2	保護者援→保護者支援 ではないでしょうか。		○	
	誤植がある(「豊かな食体験丁寧な対応」→「豊かな食体験の丁寧な対応」)	1	「豊かな食体験丁寧な対応」は「豊かな食体験の丁寧な対応」「の」とか入った方がいいのではと思う		○	

表6-5 「わかりにくい」の自由回答分析結果⑤

n= 27

項目	カテゴリー	件数	わかりにくい内容(記載例)	母子保健	保育・幼児施設	その他
全体	内容が分かりにくい(情報が不足)	4	各事例の課題と支援をもっと具体的に実践例を記載してほしい	○	○	
	内容が分かりにくい(ガイド全体との繋がりを整理してほしい)	1	P12の下の方のどこを特に支援した例なのかを事例の最初に記載してもらえると悩んでいる方が近い事例を参考にしやすい	○		
	長い	1	長い	○		
事例1 (P28～29)	誤植がある(「育てにくさを思 わせる」のスペース)	1	「育てにくさを思 わせる」の“思”と“わせる”の間があいているのは間違いなだけでしょうか？		○	
	内容が分かりにくい(情報が不足)	1	「地域の親子の支援者となる保育所、幼稚園、子育て施設等との連携する部分を検討し、3職種で対応ができるように方針をたておく」について詳しく知りたい		○	
	用語の使い方に対する疑問(子育て施設)	1	子育て施設とは何ですか？		○	
事例2 (P30～31)	内容が分かりにくい(情報が不足)	2	ガイドに添付されている問診票については理解できましたが、既存の問診票も添付されていると違いがわかりやすいと思います。		○	
	内容が分かりにくい(文章を図式化してほしい)	1	とてもよい事例内容だと思います。できればこの文章の内容を図(流れ図)にしたものを31ページの下に出していただけると読者の理解が早まると思いました			○
事例2, 3 (P30～33)	内容が分かりにくい(伝えたいことが不明瞭)	1	・事例2と事例3の取組による効果が同じような効果とされますが、どのあたりが伝えたい重要なこととお考えでしょうか？		○	
事例3 (P32～33)	内容が分かりにくい(情報が不足)	1	「保護者が抱えている子どもの食事の心配ごとと、指導担当者が判断する子どもの食事の心配ごとの間に差があるのかを把握する」をどうやって把握するのか？把握した後、どのように対応していくのかを知りたい		○	
事例4 (P34～35)	内容が分かりにくい(情報が不足)	3	「栄養相談票」も掲載していただきたい	○	○	
事例5 (P36～39)	図が見にくい(マップ)	2	マップがどんなものなのか知りたかったが写真からはまったくわからなかった		○	
	掲載位置がずれている	2	P36下:写真の説明がP37にずれている		○	
事例6 (P40～41)	誤植がある(堀→掘)	1	「サツマイモ堀」の“堀”でないと思うのですが、“掘り”ではなく“堀”を使う理由を教えてください		○	
事例7 (P43～45)	内容が分かりにくい(情報が不足)	1	「病中病後児に対しても、症状に合わせた適切な食事が提供できるよう、保護者連携の元に栄養士が中心となって対応している」とはどのような対応をしているのか具体的に教えていただきたいです		○	
事例9 (P48～50)	記載内容に対する意見(事例の匿名化が不要)	1	P49:「甲州市」と資料に書かれているので「K市」とする意味がない→どの事例も市町村目を隠さなくてよいのではないかと		○	
事例10 (P51～52)	言葉の意味がわからない(卒後教育、小児アレルギーエデュケーター、リソース、リカレント教育)	1	「卒後教育」「小児アレルギーエデュケーター」「リソース」「リカレント教育」の言葉の説明を載せてほしい		○	
事例12 (P55～56)	内容が分かりにくい(事例選抜理由が不明確)	1	どの点が先駆的で好事例なのかかわからない		○	
	内容が分かりにくい(情報が不足)	1	開催頻度で3年に1回ということで情報共有が十分に行えているといえるのかどうか、詳細がよく分かりませんでした。	○		

表7 支援ガイド案の役立ちそうか

		①「2. 幼児期の栄養・食生活をめぐる状況」 (p.2～9)		②「3. 幼児期の栄養・食生活についての基本事項及び枠組み」 (p.10～11)		③図「子ども・保護者の栄養・食生活の課題の改善のための支援の方向性」 (p.12)		④「4. 幼児・保護者の栄養・食生活の課題の改善のための支援の考え方と方向性」(p.13～24)		⑤「5. 幼児期の栄養・食生活支援の取組(好事例)の紹介」 (p.25～57)	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
全体(n=117)	とても役立ちそうである	51	44.3%	56	48.3%	61	52.1%	64	57.1%	56	51.4%
	少し役立ちそうである	56	48.7%	53	45.7%	44	37.6%	44	39.3%	41	37.6%
	あまり役立たなそうである	8	7.0%	7	6.0%	12	10.3%	4	3.6%	12	11.0%
施設種類別											
母子保健施設 (n=28)	とても役立ちそうである	9	33.3%	8	28.6%	9	32.1%	11	40.7%	7	25.0%
	少し役立ちそうである	14	51.9%	15	53.6%	13	46.4%	14	51.9%	15	53.6%
	あまり役立たなそうである	4	14.8%	5	17.9%	6	21.4%	2	7.4%	6	21.4%
保育・幼児教育施設 (n=84)	とても役立ちそうである	41	49.4%	47	56.6%	50	59.5%	51	63.0%	47	61.0%
	少し役立ちそうである	38	45.8%	34	41.0%	28	33.3%	28	34.6%	25	32.5%
	あまり役立たなそうである	4	4.8%	2	2.4%	6	7.1%	2	2.5%	5	6.5%
その他 (n=5)	とても役立ちそうである	1	20.0%	1	20.0%	2	40.0%	2	50.0%	2	50.0%
	少し役立ちそうである	4	80.0%	4	80.0%	3	60.0%	2	50.0%	1	25.0%
	あまり役立たなそうである	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%
職種別											
管理栄養士・栄養士 (n=49)	とても役立ちそうである	21	42.9%	20	41.7%	20	40.8%	25	53.2%	21	43.8%
	少し役立ちそうである	24	49.0%	24	50.0%	23	46.9%	21	44.7%	19	39.6%
	あまり役立たなそうである	4	8.2%	4	8.3%	6	12.2%	1	2.1%	8	16.7%
保健師 (n=6)	とても役立ちそうである	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	33.3%	1	16.7%
	少し役立ちそうである	6	100.0%	5	83.3%	5	83.3%	4	66.7%	5	83.3%
	あまり役立たなそうである	0	0.0%	1	16.7%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
看護師 (n=8)	とても役立ちそうである	4	50.0%	5	62.5%	4	50.0%	5	62.5%	4	57.1%
	少し役立ちそうである	3	37.5%	3	37.5%	3	37.5%	2	25.0%	3	42.9%
	あまり役立たなそうである	1	12.5%	0	0.0%	1	12.5%	1	12.5%	0	0.0%
保育士 (n=15)	とても役立ちそうである	10	66.7%	10	71.4%	12	80.0%	7	53.8%	8	61.5%
	少し役立ちそうである	5	33.3%	4	28.6%	3	20.0%	6	46.2%	4	30.8%
	あまり役立たなそうである	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	7.7%
幼稚園教諭 (n=5)	とても役立ちそうである	2	50.0%	2	40.0%	3	60.0%	3	60.0%	3	60.0%
	少し役立ちそうである	1	25.0%	2	40.0%	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%
	あまり役立たなそうである	1	25.0%	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%
調理員 (n=6)	とても役立ちそうである	4	66.7%	4	66.7%	4	66.7%	5	100.0%	3	75.0%
	少し役立ちそうである	2	33.3%	2	33.3%	2	33.3%	0	0.0%	1	25.0%
	あまり役立たなそうである	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
医師 (n=3)	とても役立ちそうである	2	100.0%	1	33.3%	1	33.3%	1	33.3%	1	33.3%
	少し役立ちそうである	0	0.0%	2	66.7%	1	33.3%	2	66.7%	2	66.7%
	あまり役立たなそうである	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%
歯科医師 (n=1)	とても役立ちそうである	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	少し役立ちそうである	1	100.0%	1	100.0%	1	100.0%	1	100.0%	0	0.0%
	あまり役立たなそうである	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
歯科衛生士 (n=3)	とても役立ちそうである	1	33.3%	2	66.7%	2	66.7%	2	66.7%	1	33.3%
	少し役立ちそうである	2	66.7%	1	33.3%	1	33.3%	1	33.3%	2	66.7%
	あまり役立たなそうである	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
施設長・副施設長 (n=21)	とても役立ちそうである	7	33.3%	12	54.5%	15	71.4%	14	66.7%	14	73.7%
	少し役立ちそうである	12	57.1%	9	40.9%	4	19.0%	6	28.6%	4	21.1%
	あまり役立たなそうである	2	9.5%	1	4.5%	2	9.5%	1	4.8%	1	5.3%

欠損値を除いて集計

表8-1 「役立ちそう」の自由回答分析結果①

n= 122						
カテゴリー （活用場面）	カテゴリー （活用方法）	件数	どんな時に役立ちそうか（記載例）	母子保健	保育・幼 児施設	その他
乳幼児健診	支援方法の検討	2	乳幼児健診等の保健指導の場面で、自身の指導する際の知識として役立ちそうである。	○		
	アセスメント（現状把握）	1	乳幼児健診時に、母子の様子を把握する時の参考になる	○		
	乳幼児健診全般	1	乳幼児健診	○		
献立作成		6	②魚、大豆製品の摂取頻度が少ないと分かったので、献立を作成する上で意識していこうと思った		○	
個別相談・面談	支援方法の検討	4	個別相談等を行う時の説明の資料として役立つと思う（自分の中の知識として）	○	○	
	助言内容の検討	1	虫歯については「歯みがきを嫌がる」という子が多く、相談を受けることがあるが、間食の与え方についても注意をすることで予防につながることを伝えられると感じた		○	
	相談・面談全般	6	保護者との栄養面談・個人面談時	○	○	
集団指導	支援方法の検討	2	集団向けに資料や話を用意する時に困りごとなどの傾向をつかめるため	○	○	
	集団指導全般	2	各教室のおやつ指導	○		
保護者支援	アセスメント（現状把握）	1	保護者への対応の時に家庭での困っていることを聞くときの具体例として		○	
	支援方法の検討	6	平成27年乳幼児栄養調査がコンパクトにまとめられているので現状を踏まえた支援の参考に活用できる	○	○	○
	助言内容の検討	2	調査結果をもとに保護者支援ができることや経済的な面を把握することで、保護者に寄り添ったアドバイスが出来ると思う		○	
	根拠に基づく支援	5	数字が読み取れると、ポイントが見えてくるので、根拠に基づいて保育内容を見直したり保護者支援に役立つ		○	
	日常的な会話の参考	4	保護者の方がどのようなことに困っているのか知れたので、保護者に話す機会となると思う		○	
	保護者支援全般	10	保護者へのアプローチの方法など	○	○	○
保護者への情報発信	おたより作成	9	お便りなどで正しい情報を保護者に提供することができる		○	○
	情報提供	5	自分の子の現状しか知らない親にまわりの状況を知らせるときに役立ちそうである	○	○	
保護者会・懇談会	伝える内容の検討	5	アンケートを基に保護者会などで話題にできる		○	
	保護者会・懇談会全般	4	懇談会で食事の話題になった際		○	
地域支援事業	支援方法の検討	3	地域支援事業等の栄養講座の題材を決めるときに“困っていること”のデータは参考になる		○	
研究会・研修会		2	研修会		○	
支援者教育	家庭理解	1	若手職員（保育士）の育成の中で活用できる家庭の理解につなげることができる		○	
活用場面不明	アセスメント（現状把握）	4	幼児期の食生活の状況をおおまかに把握したいとき	○	○	
	アセスメント（問題の把握）	1	子どもの生活を把握したり、問題だと感じる行動の原因を分析する時など。		○	
	アセスメント（課題の整理）	2	地域性も考慮しながら当市における幼児期の栄養・食生活の課題への参考になると思った	○	○	
	アセスメント（その他）	1	園内での調査結果との比較		○	
	支援内容の検討	3	虫歯があることと間食の関係から、虫歯の予防について説明するときなど		○	
	情報提供	2	現状を伝えるとき		○	
	根拠に基づく支援	2	「早寝早起き朝ごはん」の大切さを伝える際の裏付けとしてデータが活用できる	○	○	
その他（感想・意見等）		25	乳幼児期の現状を知る・知識を持つことが日々の仕事につながる気がした	○	○	○

表8-2 「役立ちそう」の自由回答分析結果②

n= 107

カテゴリー (活用場面)	カテゴリー (活用方法)	件数	どんな時に役立ちそうか(記載例)	母子保健	保育・幼 児施設	その他
乳幼児健診	アセスメント(課題の整理)	2	幼児健診や栄養相談で、子どもの心配ごとに対する必要な情報の視点の参考になったと思った	○		
	支援する際に活用	1	乳幼児健診等の保健指導の場面で保護者と話をする際に、支援する枠組みとして活用できそうである	○		
	乳幼児健診全般	2	乳幼児健診	○		
食育	アセスメント(現状把握)	1	食育を考える際に生活習慣を把握することが大事であるということだったので取り入れていきたいと思った		○	
	アセスメント(課題の整理)	2	子どもの食についての課題と保護者の課題を全体的にとらえることができ、食育を考える視点となる		○	
	計画作成	2	食育活動での計画をする際に子どもの心配ごとからテーマを決めようと思う		○	
保育	支援方法の検討	2	明らかとなった課題を考慮することで今後の保育に役立てられる		○	
個別相談・面談	アセスメント (相談内容の把握)	3	個別相談時、保護者の主訴を元に原因は何なのか、この図を元に考えていく	○	○	
	アセスメント(現状把握)	4	栄養相談の場面で保護者に確認する項目として役立ちそうである	○	○	
	支援方法の検討	2	子どもの相談を受けた時、いろいろな方向から改善策を見出すのに役立ちそうである		○	
	助言内容の検討	3	保護者から食事での困りごとを相談されたときに、どのような配慮が必要か把握するのに役立ちそうである		○	
	個別相談・面談全般	4	保護者との栄養面談や個人面談時		○	
子育て講座	資料作成	1	子育て講座で印刷配布			○
保健指導	支援内容の検討	1	保健指導の参考		○	
地域交流事業	事業全般	2	保育園で行う地域交流事業を行う上でとても参考になる		○	
保護者支援	支援方法の検討	6	保護者の課題と子どもの心配ごとを結びつけ声掛けする際に役立ちそうだと感じた		○	○
	助言内容の検討	3	保護者へのアドバイスがより具体的に伝えられる		○	
	現状理解促進	3	子どもの食生活、発達を理解していない保護者への支援が必要と感じたとき	○	○	
	保護者支援全般	4	保護者への理解	○	○	
保護者への情報発信	おたより作成	3	保護者の心配ごとがわかるので、おたより等に取り上げることができる		○	○
	情報提供	4	保護者へ情報提供する際に参考にする		○	
保護者会・懇談会	保護者会・懇親会全般	3	保護者向けの懇談会時		○	
支援者間の情報共有	アセスメント(問題の把握)	2	保護者の心配ごとについて、職員間で全体の傾向を共有する時に役立つ		○	
	支援方法の検討	1	ケース検討を行う時など課題に応じた方向性が一目でわかりやすい	○		
多職種連携	課題の整理	1	多職種連携にあたっての課題の整理時	○		
	支援方法の検討	1	さらに他職種と連携し、具体的な働きかけができると思う		○	
支援者教育	新人・非常勤職員教育	3	各項目立てを使い、新人教育の際幼児期の確認事項として使用できる。	○	○	
活用場面不明	アセスメント(現状把握)	10	食生活に課題のあるケースを検討する際、問題点だけ見るのではなく、全体を見て好ましい点(問題でない点)についても把握できる。	○	○	
	アセスメント(問題の把握)	4	その親子の食のどこに問題があるのかを確認するのに利用できそう	○	○	
	アセスメント(課題の整理)	8	枠組みがあることでどの部分に課題があるのか整理しやすい	○	○	
	支援方法の検討	4	子どもの心配ごとがあった時、その原因がどこからくるのか、どのような対策をすることが解決への近道なのか等、図で見るとわかりやすい。		○	
	評価	1	育児状況の評価が行える			○
	その他	2	実践の柱立ての資料として		○	
その他(感想・意見等)		12	生活、食事への関心、行動、食事、間食、飲料、発育、発達、健康とそれぞれに分かれていて、その関連性がとても分かりやすく思う。	○	○	○

表8-3 「役立ちそう」の自由回答分析結果③

n= 96

カテゴリー （活用場面）	カテゴリー （活用方法）	件数	どんな時に役立ちそうか（記載例）	母子保健	保育・幼 児施設	その他
乳幼児健診	支援の方向性の 確認・整理	2	幼児健診や多職種がかかわる栄養相談で支援者側の今後の 支援の方向性を共有する上で参考になると思った	○		
	乳幼児健診全般	2	健診での保護者支援時	○		
食育	アセスメント （心配事の把握）	1	子どもの心配ごとや保護者の課題が図で分かりやすくまとめら れている為、食育等の役に立ちそう		○	
	計画作成	1	食育計画の作成		○	
子どもへの支援	支援の方向性の 確認・整理	1	子どもへの支援の方向性をさぐりたいとき		○	
個別相談・面談	アセスメント （問題の把握）	1	保護者に離乳食の聞き取りをする中で心配事をあげられた時		○	
	アセスメント （課題の整理）	1	個別相談の時、問題点を整理する時に役立つ	○		
	支援方法の検討	6	相談の際、対象者の課題をカテゴリー化したのち、何の支援が 必要か考えるヒントになると思う	○	○	
	助言内容の検討	3	保護者の相談にこたえとときのヒントとして役立ちそうである		○	○
	相談・面談全般	2	保護者からの相談		○	
保護者支援	支援方法の検討	9	保護者支援の際、支援のポイントを把握しやすい。		○	○
	助言内容の検討	5	親が子どもに対してそれぞれの食に悩みごとがあり、具体例を 表して対策や解決策をアドバイスをするのに役に立ち、方向性 を示せる	○	○	
	保護者支援全般	5	類似する課題のある子どもの保護者へ支援を行う時		○	
保護者への情報発信	おたより作成	3	実際に保護者の方にどんな風に働きかけることが良いのかが 分かりやすく書いてあるため、おたより等で発信していきたい。		○	○
	情報提供	2	保護者への情報発信を行う上で、役に立つと感じた。		○	
支援者間の情報共有	支援方法の検討	2	園で課題に対して何ができるのかを考えるきっかけになる		○	
	問題点の把握	1	給食会議等での児の理解、食行動の問題点の抽出、保護者 への支援について、具体的な方法を話し合う際の手がかりとし て役立ちそう		○	
	自分の役割の確認	1	自分が調理員という立場でどこがポイントになるか確認できる		○	
	その他	2	表になっていることでわかりやすいし、職員間での共有に役立 ちそうである		○	
職員会議		2	職員会議など		○	
多職種連携		4	健診や相談、多職種とかかわる時	○	○	
支援者教育	新人・非常勤職員教育	1	新任や非常勤職員への教育、指導の時	○		
他機関との連携		2	関連機関への連携にも役立つ		○	
活用場面不明	アセスメント （現状把握）	3	子どもの姿を把握する時	○	○	
	アセスメント （問題の把握）	1	その親子の食のどこに問題があるのかを確認するのに利用で きそう	○		
	アセスメント （課題の整理）	2	食の課題を子ども・保護者について整理して考えたいとき	○	○	
	支援方法の検討	12	問題点をどのように支援していくのか考えるとき	○	○	
	支援の方向性の 確認・整理	5	支援の方向性を整理する際の視点として		○	○
その他（感想・意見等）		14	読み取ると、チェック（ポイント）や対応の視点がよくわかる	○	○	○

表8-4 「役立ちそう」の自由回答分析結果④

n= 103

カテゴリー （活用場面）	カテゴリー （活用方法）	件数	どんな時に役立ちそうか（記載例）	母子保健	保育・幼 児施設	その他
乳幼児健診	アセスメント（問題の把握）	1	健診時の栄養相談は非常勤職員が実施しているため、チェック表を活用することで支援のムラが無いようにできると考える	○		
	乳幼児健診全般	5	健診や育児相談等で使用すれば栄養相談内容、指導内容がわかりやすいと思う	○		○
給食時間		1	共に給食を食べるときにおいしそうに食べる	○		
食育		3	子どもの食育を行う時		○	
個別相談・面談	アセスメント（現状把握）	2	問診票、支援内容チェック表は、自分が栄養指導をする際の確認項目としても使用できる。		○	
	アセスメント（問題の把握）	1	保育相談の中で食に対しての悩みが出た場合、問題点を探る上での参考資料として		○	
	助言内容の検討	3	保護者の相談対応の際に具体的に助言することができる		○	
	相談・面談全般	6	食生活の課題をかかえる保護者との面談時	○	○	
保健指導	課題への気づき	1	P21,保健指導場面で、保護者を一緒にチェックし、課題に気づいてもらう際に役立ちそうである。	○		
入園時面談	アセスメント（現状把握）	1	保育園の入園時に活用することで保護者の食への意識、子どもの食生活の状況を把握しやすくなると考えられる。		○	
保護者支援	アセスメント（現状把握）	2	食生活での心配事を保護者に聞くときに問診票があると整理しやすい。		○	
	支援方法の検討	2	保護者の子どもに関する意識を変えていく具体的支援方法を示すとき	○	○	
	助言内容の検討	3	咀嚼機能と調理形態があっていない子どもや保育園と家庭の調理形態にずれがある子どもの保護者を支援するとき		○	
	日常的な会話の参考	2	保護者へのアプローチや話をするのに参考になる		○	
	保護者支援全般	6	保護者支援をするとき	○	○	
保護者への情報発信	おたより作成	2	給食だよりなどで保護者へ発信		○	
	情報提供	4	保育園での子供の食事の様子について理解をしていただく際に参考にさせていただけたと思った。		○	
保育参観		1	保育参観での給食の時に保護者へ向けて保護者の支援がいかに大切かを伝える		○	
保護者会・懇談会		2	懇談会での悩み事相談の際		○	
支援者間の情報共有	支援の方向性の確認・整理	1	支援者同志で情報共有の際に支援方針の確認、共有ができると考える。	○		
職員会議		1	職員会議		○	
多職種連携		2	保育士等他職種との連携にも役立つと考えられる。	○	○	
研修会		2	職員の研修		○	○
支援者教育	新人育成	2	新人が配置されたときなど参考になる可能性がある	○	○	
	情報提供	2	職員への情報提供の時	○	○	
他機関との連携	連携する際の参考	3	他機関との連携を実際取ろうとしたときに相談したりこの機関がいいのでは？と選ぶ基準となる	○	○	
活用場面不明	アセスメント	2	食生活課題改善の為のアンケート作成などに役立つと思う		○	
	計画作成	1	具体的にどのように支援していくのか計画が立てられる		○	
	支援方法の検討	1	人によって同じような悩みでも解決方法が全く違う場合があるが、ある程度心配ごとの中身で振り分けをして支援方法を考えていくときに必要	○		
	助言内容の検討	1	子どもの食生活を向上させるために必要なポイント、行動が示されていて支援のアドバイスをする時に役立つ		○	
	その他	1	指導の際に活用できる			○
その他（感想・意見等）		36	タイトル通りですが、課題と支援の方向性が記述されており、現場のスタッフにとってもわかりやすいと思う	○	○	○

表8-5 「役立ちそう」の自由回答分析結果⑤

n= 98

カテゴリー (活用場面)	カテゴリー (活用方法)	件数	どんな時に役立ちそうか(記載例)	母子保健	保育・幼 児施設	その他
乳幼児健診	支援方法の検討	2	幼児健診時の栄養指導について実施方法などを検討する際	○		
	システムづくり	1	地域の保健行政との連携において、4か月、3歳6か月の集団健診の際に全体でカバーするためにもシステムづくりを行うのに有用	○		
	乳幼児健診全般	2	健診の際にアレンジし導入できる	○		○
食育	計画	1	幼児を対象とした食育活動を計画する時の実践例として役に立つと思う		○	
	活動の参考	24	保育園での食育活動をする際に参考にしたい	○	○	
	振り返り	1	事例と同じような活動をいくつか取り入れているので、保育士がその活動の意味を意識したり考えたりするきっかけを作るのに役立つと思う。		○	
	見直し	1	自園の食育文化の見直し、他園の取り組みを知ることによって、新たな視点で考えることができる。		○	
	全般	8	物語メニューの導入を見て、いつもの給食(ごはん)も一工夫加えることで子どもたちの興味・関心、食べてみたいという意欲につながると感じた		○	○
事業・活動	活動の参考	12	当施設において、事業の参考になると思う	○	○	
	評価	1	データベース化することで客観的な評価をしやすくなる できれば具体的に帳票や入力データを明示できればなお良いと思われる	○		
	見直し	4	自分が行っている事業のやり方や見直しのヒントになる	○		
集団指導	支援方法の検討	1	給食施設指導のテーマ、講習会企画のとき	○		
保護者支援	助言内容の検討	1	具体的に支援策が記載されているので保護者にアドバイスを するときなど役立ちそう		○	
	保護者支援全般	3	保護者支援の時にも役立ちそうである。		○	
支援者間の情報共有	支援の方向性の 検討の参考	1	他職種との話(会議)の中でも事例として提供し自園での方向性を考えるきっかけになる		○	
	その他	1	アレルギー対応はその人にかかわる人・職種で共通の知識、対応を行うことが大切だが、特に管理職にあたる立場の人の知識の更新がされにくい。		○	
多職種連携		5	給食関係者や保育士、子ども、保護者との連携作りの事例として参考になり、食事作りをしていく時にも役立つと思った	○	○	
支援者教育	職員研修	2	職員研修。見せ方の構成がわかりやすく、会議や研修で活用したい		○	○
	保育士育成	1	アレルギー児が増えてきているので保育士のアレルギーに対する情報や能力向上は必要だと思う		○	
他機関との連携	連携する際の参考	3	他施設・機関に相談する際にアプローチすべき機関を選択しやすい。他保育園でのとりくみを知ることによって参考になる		○	
	その他	2	幼稚園と学校給食の共同事業の取り組み		○	
保護者・地域とのつながり		2	食育を通して、保護者や地域の人たちとつながりを作りたいとき		○	
その他(感想・意見等)		19	さまざまな課題について実際の取組を知ることができ、勉強になった	○	○	

表9 支援ガイド案に対する意見(もっと入れてほしい内容)

n= 83

支援ガイド案 枠組み	カテゴリー	件数	記述内容例	母子保 健	保育・幼 児施設	その他
発育・発達・ 健康	発育	3	・離乳・授乳の支援ガイド参考資料(p43)に掲載があるように、発育、発達過程にかかわる主な特徴も入れていただきたい	○	○	
	効果的な介入のポイント	1	幼児期で、このような状態になったら手厚く介入するという基準、たとえば肥満に関し1歳半のカウプ指数を3歳のカウプ指数で判断するとか、将来の高血圧対象としてうす味を守ることをどこかの時点で(どの年齢が効果的か)話をするなど介入のポイントを内容に入れていただきたい。	○		
	年齢別支援	2	年齢によって違うこともあるので年齢別に支援案を分ける、又は逆に1つのことを乳児から中学生までの一連の流れの支援も良い。	○	○	
	食物アレルギー	5	・食物アレルギーへの対応について、支援ガイド案に取り入れていただきたい。幼児期になると食べる食材も増え、離乳期とは異なるアレルギーの特徴がでるため、そのあたりも取り入れていただきたい	○	○	○
	歯科	2	歯の健康＝食生活支援という点では、仕上げ磨きや行政での歯科検診(フッ素塗布)などの取組も入れてもいいのではないかと思います		○	
	便	1	子どもの身体的健康の項目の中に、便の性状も入れてはどうか。離乳食完了間もない子どもでは、不消化のまま排便しているケースが少なくない。その子どもが消化できるものを食べる事も大切だと考える。		○	
	心理面	1	幼児食は心理的アプローチも必要だと感じるので、心理士の先生側からみたアプローチ法などをコラムなどにしてのせてみてはどうか	○		
	発達に課題がある児の支援	1	健診等で栄養相談を利用する方は児に発達的な課題がある場合も多いため、実際にはそのような児への対処(相談方法)で悩む事が多い	○		
食事・間食・ 飲料	発達段階に応じた食べ方等の詳しい内容	5	幼児期に獲得する食に関する能力や嗜好、食具に関わる手指の発達や、咀嚼機能の発達など、食に関する支援をするうえで知っておくべき事項について詳しい内容を盛り込んでいただきたいです。	○	○	
	幼児の食事の目安量	6	・幼児の1日の食事の目安量 例)3～5歳児 穀類300～400g、乳製品300gなどがあると参考になります	○	○	○
	誤飲・窒息等事故予防の視点	2	最近、ぶどうやプチトマトなどの誤飲事故が発生した事例が報じられ、献立作成上食経験の幅が狭くなることが考えられ、発育発達にどのような影響が出てくるか心配な面もあるため。食経験の幅を狭くしない提案があると現場は助かると思われます。	○	○	
	咀嚼機能と調理形態の関係をもっと具体的に	3	これから知識を得ていく人たちにとってはもっと具体例があった方がありがたいのではないかと思います。例えば、P14(4)の配慮が具体的に示されていたり、食材やメニューの提案例など。手づかみ食べから食具の使い方の流れや箸を持つときの伝え方。		○	
	レシピ	2	・メニューレシピの提案	○		
食事への関 心・行動	丸のみ・噛まない	3	噛まない、のみこみがうまくできない児への具体的な支援の仕方		○	
	食事マナー	1	・食事のマナーについて		○	
	偏食やむら食い	1	実際に偏食やムラ食いなどでこまっている事例に対して工夫して取り組んだ事で心配なくなったという「具体例」や「保護者、保育者のかかわり方具体例」		○	
	行事食の利用	1	日本の四季折々の行事食を利用しての幼児たちへの食への関心を導く事案等も参考にしたかったと思います	○		
	遊び食べ	1	P3で「遊び食べ」が現在子どもの食事で困っていることの中で上位にあるが、具体的な支援方法が書かれていると支援の際に役立つ。その他の項目についても、その課題に対して方向性に加え、具体的な支援方法があるとより良いと思う	○		
生活	睡眠	1	睡眠時間(理想的な)を具体的に示してほしいです		○	
保護者支援	保護者への支援の具体例	6	・問題点だけでなく、どのような声掛けが必要なのか、解決方法(種類?事例でもいいので)を教えていただきたい(P21の59問もある問いをいつして聞いたら対応が必要と思う対応を教えてください)	○	○	
支援全般	他組織・多職種連携	3	食の改善をはかるために組織的に多職種と連携をはかるという内容に驚きました。事例においてももう少しがえるのですが、どんな組織でどんな支援を行えるのか、明確に知りたいと感じました	○	○	
	具体的な支援事例	3	個別支援の好事例があると理解も深まると思いました。P13～15のように、困りごとの項目に対する具体的な支援があると実践に活かしやすいです。	○	○	○
	コロナ禍における支援	3	コロナ禍における乳幼児の食の支援について		○	
その他	めざす姿を載せてほしい	3	全体的に文言の整理がされてなく、質問、項目等ネガティブなものが多い。目指す姿や正しい姿をのせてほしいと思う	○	○	
	ご意見など	9	とても詳しく示してある支援ガイド(案)だと感じた。まだ一人ではできない年齢の幼児期だからこそ健やかな発育が基盤であると考え。幼児期の大切なときに栄養・食生活を支援することで、次につながる学童期にどのような育ちが保障されていくのか、次のステップも知りたいと思う。	○	○	
	今のものでよい	5	取組(好事例)の紹介がとても興味深かったです。保ゴ者や保育者等を育てることも大切ですが、子ども自らが食生活の向上に挑戦できる文化を作ることも大切にしたいです。		○	○
	特になし	9	特にありません	○	○	○

「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド」(案) に関するご意見アンケート

「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド」(案) (以下、「支援ガイド案」とする) をご一読いただいた上で、以下のアンケートにご回答をお願いいたします。今後、支援ガイド案をよりよいものへと改善していくために、忌憚のない、率直なご意見をいただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。なお、同一職種の方が複数名いる場合は、代表者の方 1 名にご回答いただけますと幸いです。

I「幼児期の健やかな発育のための栄養・食生活支援ガイド」(案) の内容について、質問します。

1. 支援ガイド案の内容のわかりやすさについてお尋ねします。「わかりにくい」と回答した項目については、具体的にページのどのような点がわかりにくいと感じたか、教えてください。

1) p.2～9「2. 幼児期の栄養・食生活をめぐる状況」

1. わかりやすい

2. わかりにくい

→どの内容(ページ、項目や文章) :

→わかりにくい内容 :

2) p.10～11「3. 幼児期の栄養・食生活についての基本事項及び枠組み

1. わかりやすい

2. わかりにくい

→どの内容(ページ、項目や文章) :

→わかりにくい内容 :

3) p.12 下の図「子ども・保護者の栄養・食生活の課題の改善のための支援の方向性」

1. わかりやすい

2. わかりにくい

→どの内容(ページ、項目や文章) :

→わかりにくい内容 :

4) p.13～24「4. 幼児・保護者の栄養・食生活の課題の改善のための支援の考え方と方向性」

1. わかりやすい

2. わかりにくい

→どの内容(ページ、項目や文章) :

→わかりにくい内容 :

5) p.25～57「5. 幼児期の栄養・食生活支援の取組(好事例)の紹介」

1. わかりやすい

2. わかりにくい

→どの内容(ページ、項目や文章) :

→わかりにくい内容 :

2. 支援ガイド案にある次の1)～5)の内容は、回答者ご自身が幼児や保護者への栄養・食生活支援を行う際に役立ちそうでしょうか。「とても役立ちそうである」又は「少し役立ちそうである」を選択した場合は、どの内容がどのような時に役立ちそうかについても教えてください。「あまり役立たなさそうである」を選択した場合は、その理由を教えてください。

1) p.2～9「2. 幼児期の栄養・食生活をめぐる状況」

1. とても役立ちそうである 2. 少し役立ちそうである 3. あまり役立たなさそうである

→どの内容（ページ、項目や文章）：

→理由：

→どのような時に役立ちそうか：

2) p.10～11「3. 幼児期の栄養・食生活についての基本事項及び枠組み」

1. とても役立ちそうである 2. 少し役立ちそうである 3. あまり役立たなさそうである

→どの内容（ページ、項目や文章）：

→理由：

→どのような時に役立ちそうか：

3) p.12 下の図「子ども・保護者の栄養・食生活の課題の改善のための支援の方向性」

1. とても役立ちそうである 2. 少し役立ちそうである 3. あまり役立たなさそうである

→どの内容（ページ、項目や文章）：

→理由：

→どのような時に役立ちそうか：

4) p.13～24「4. 幼児・保護者の栄養・食生活の課題の改善のための支援の考え方と方向性」

1. とても役立ちそうである 2. 少し役立ちそうである 3. あまり役立たなさそうである

→どの内容（ページ、項目や文章）：

→理由：

→どのような時に役立ちそうか：

5) p.25～57「5. 幼児期の栄養・食生活支援の取組（好事例）の紹介」

1. とても役立ちそうである 2. 少し役立ちそうである 3. あまり役立たなさそうである

→どの内容（ページ、項目や文章）：

→理由：

→どのような時に役立ちそうか：

3. 支援ガイド案に含まれていない内容で、取り入れた方がよい、もっとこういう内容を入れてほしいという内容がありましたら、教えてください。

4. その他支援ガイド案に関する感想、ご意見等がありましたら、ご記入ください。

Ⅱ あなたが現在業務として行っている栄養・食生活支援について、教えてください。

1. 業務として実施している栄養・食生活支援内容について、あてはまるものをすべて選択してください。

1. 幼児健診・歯科健診における栄養指導・相談や食育
2. 幼児健診・歯科健診以外の場における栄養指導・相談や食育
3. 食事やおやつの調理
4. 食事やおやつの提供・片付け（配膳する）
5. 共食（子どもと一緒に食べる）
6. 幼児に対する食育（例：料理教室）※1 以外
7. 保護者に対する食育（例：料理教室）※1 以外
8. 保護者に対する情報提供（例：リーフレット配布、ポスター掲示）
9. 保護者同士の交流を深める機会の提供
10. 保護者からの個別相談 ※1 以外
11. その他（ ）

2. 幼児やその保護者に対する栄養・食生活支援を行う際に、どのような情報を参考にしていますか。最近 3 か月以内に参考にしたものをすべて選択してください。

- | | |
|---------------------------|---------------------------------------|
| 1. 栄養や食に関する専門書・教科書 | 9. 同職種の助言や提供情報 |
| 2. 一般書籍 | 10. 厚生労働省が提供する情報
(→具体的に：) |
| 3. 学術雑誌、研究論文 | 11. その他省庁が提供する情報
(→具体的に：) |
| 4. 一般雑誌、新聞記事 | 12. その他の人からの助言や提供情報
(具体的にどのような人：) |
| 5. 研修会、研究会、学会等の資料や情報 | 13. その他（) |
| 6. 料理検索サイト（クックパッド、クラシルなど） | |
| 7. ウェブサイト（料理検索サイト以外） | |
| 8. 同僚や上司の助言や提供情報 | |

1. 同じ施設内の同職種に相談する
2. 同じ施設内での他職種に相談する（→相談する職種： ）
3. 施設外で幼児の栄養・食生活支援に関わる同職種に相談する
（→相談相手が所属する施設（例：市内の別の保育園）：
4. 施設外で幼児の栄養・食生活支援に関わる他職種に相談する
（→相談相手が所属する施設と職種（例：市内の別の保育園の栄養士）：

5. 自分で調べる（→よく使用する情報源：

6. その他（

1. あなたが現在所属する組織・施設について、あてはまるもの1つを選択してください。

1. 市区町村母子保健担当部署 2. 市区町村保育担当部署 3. 病院・クリニック
4. 公立保育所 5. 私立保育所 6. 公立幼稚園 7. 私立幼稚園 8. 公立認定こども園
9. 私立認定こども園 10. 子育て支援センター 11. その他（ ）

2. 現在所属する組織における職種について、あてはまるもの1つを選択してください。

1. 管理栄養士・栄養士 2. 保健師 3. 看護師 4. 保育士 5. 幼稚園教諭 6. 保育教諭
7. 調理員 8. 医師 9. 歯科医師 10. 歯科衛生士 11. 施設長・副施設長
12. その他（ ）

4. これまで業務として「幼児の栄養・食生活支援」に従事した合計年数を教えてください。現在所属する組織内で異動があった方や転職した場合（例：幼稚園から保育所へ、保育所から行政へ）は、現在所属する組織・部署以外も含めて考えてください。計（ ）年

6. 性別 1. 男性 2. 女性 3. 回答したくない

7. 年代 1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代 6. 70代以上

このアンケート用紙と同意書（回答者、施設長）を一緒に返信用封筒に入れて返送してください。

